

令和7年度

こども家庭庁 子ども・子育て支援等推進調査研究事業

「思春期のこどもが安心して産婦人科を

受診できる環境づくりのための調査研究」

事業報告書

令和8年3月

PwC コンサルティング合同会社

概要

【事業目的】

先般、改定・施行された「成育医療等基本方針」及び「経済財政運営と改革の基本方針 2025」では、プレコンセプションケアの推進を目指している。一方、思春期の子ども（概ね 10 歳から 18 歳）は、本人や保護者の情報不足やためらいから、産婦人科受診の必要がありつつも、診断が遅れることも多いことが指摘されてきた。思春期の子どもにも産婦人科医療機関を受診しやすい環境整備が求められている。

そこで、本事業では、思春期の子どもの産婦人科受診に対する心理的ハードル等の実態調査や各種資料の作成を通じて、思春期の子どもが安心して産婦人科を受診できる環境整備について検討をする。対象となる症状は、産婦人科に関する症状全般とするが、特に一般に起こりやすい症状（特に月経に関する症状（月経困難症、月経過多、無月経、月経前症候群（PMS））に着目することとする。

【実施方法】

目的達成のため、下記 3 つを実施した。

1. 当事者における産婦人科受診の心理的ハードルを高める要因等についての実態調査（アンケート調査）
2. 当事者・保護者へのヒアリング調査
3. 資料作成
 - 思春期の子どもが必要なタイミングで産婦人科受診をできるよう、医療機関受診の目安を示す「産婦人科受診チェックリスト」
 - 産婦人科診察に対する不安を解消するための「産婦人科診察 Q&A」
 - 思春期の子ども患者に寄り添った産婦人科診察ができるよう、当事者や保護者の声を反映した「医療従事者向けパンフレット」

【調査結果】

有識者及び当事者・保護者の参加する全 3 回にわたる資料作成委員会での議論及びアンケート調査結果・ヒアリング結果を踏まえ、各種資料を作成した。

【本調査研究の成果・考察】

産婦人科受診に関する実態調査を踏まえ、委員会にて有識者・当事者・保護者の意見を取り入れた資料を作成した。実態調査では、知識不足や心理的抵抗感により受診をためらう実態や、受診を抑制する要因が明らかになった。有識者、当事者、保護者の意見を取り入れ、資料の信頼性と実用性を高めた点にも意義がある。今後は、資料の周知と活用の促進の検討が求められる。

目次

1. 事業概要	4
(1) 背景と目的	4
(2) 事業の全体像	5
(3) 資材作成委員会	6
2. アンケート調査	8
(1) 調査概要	8
(2) アンケート調査結果	10
(3) まとめ	36
3. 当事者・保護者へのヒアリング	37
(1) ヒアリング方法	37
(2) ヒアリング結果概要	37
4. 各種資材	38
(1) 産婦人科受診チェックリスト	38
(2) 産婦人科受診 Q&A	38
(3) 医療従事者向けパンフレット	39
(4) 活用方法	39
5. まとめ	40
(1) 本事業の成果	40
(2) 今後の課題	40
付録	42
付録1 アンケート調査 調査票	43
付録2 当事者ヒアリング項目	57
付録3 保護者ヒアリング項目	58
付録4 産婦人科受診チェックリスト	59
付録5 産婦人科受診 Q&A	60
付録6 医療従事者向けパンフレット	64

1. 事業概要

本章では、本事業の背景と目的、および、事業の全体像等について掲載する。

(1) 背景と目的

① 背景

- 先般、改定・施行された「成育医療等基本方針」及び「経済財政運営と改革の基本方針 2025」では、プレコンセプションケアの推進を目指している。一方、思春期の子ども（概ね 10 歳から 18 歳）は情報不足やためらいから産婦人科受診が遅れることが指摘されている。

【成育医療等基本方針】

- 令和 5 年 3 月 22 日に改定の閣議決定がされた本方針において、「不妊、予期せぬ妊娠、性感染症等への適切な相談支援や、妊娠・出産、産後の健康管理に係る支援を行うため、男女ともに性や妊娠に関する正しい知識を身に付け、健康管理を行うよう促すプレコンセプションケアの推進を含め、需要に適確に対応した切れ目のない支援体制を構築する」としている。

【プレコンセプションケア推進 5 か年計画】

- 令和 7 年 6 月 13 日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針 2025」においては「プレコンセプションケア推進 5 か年計画に基づく取組を進める。」とされており、5 か年計画に沿ったプレコンセプションケアの推進を目指している。
- 計画では、プレコンセプションケアに関する概念の普及や、相談支援体制の充実に取り組むところであるが、思春期の子どもの心身の健康を規定する重要な要素の一つとして、性と健康に関する課題がある。これまで、本人や保護者の情報不足やためらいから、産婦人科受診の必要がありつつも、診断が遅れることも多いことが指摘されてきた。思春期の子どもにも産婦人科医療機関を受診しやすい環境整備が求められている。

② 目的

- 思春期の子どもの産婦人科受診に対する心理的ハードル等の実態調査や各種資材の作成を通じて、思春期の子どもが安心して産婦人科を受診できる環境整備について検討をする。
- 特に一般に起こりやすい症状（特に月経に関する症状（月経困難症、月経過多、無月経、月経前症候群（PMS））等を対象とする。

(2) 事業の全体像

① 全体像

- 上記目的を達成するために、アンケート調査を実施した。調査結果を踏まえ、①当事者やその保護者における産婦人科受診の心理的ハードルを高める要因等についての実態調査（アンケート調査）の実施、②当事者やその保護者からのヒアリングを実施し、その内容を分析した上で、③思春期のこどもが必要なタイミングで産婦人科受診ができるよう、医療機関受診の目安を示す「産婦人科受診チェックリスト」、④産婦人科診察に対する不安を解消するための「産婦人科診察 Q&A」、⑤思春期患者に寄り添った産婦人科診察ができるよう、当事者や保護者の声を反映した医療従事者向けパンフレットを作成した。

② スケジュール

- 本調査研究は令和7年9月9日に事業の内示を受け、令和8年3月31日まで、図表1に示すと通りの経過で事業を実施した。

図表 1 スケジュール

	2025年		2026年													
	12月		1月				2月				3月					
	22	29	5	12	19	26	2	9	16	23	2	9	16	23	30	
委員会	★				委員会準備資料作成				★	委員会準備資料作成		★				
アンケート	調査項目調整				実施		結果分析									
各種資材			資材作成													納品
課題整理			課題整理													
報告書	構成案作成		骨子案作成				案作成				最終案作成					

(3) 資材作成委員会

- 本事業では、円滑な実施と成果物の質的向上のため、有識者と当事者・保護者により構成される検討委員会を設置し、全3回実施した。

① 構成員

- 本事業の資材作成委員会の構成は下記のとおりである。

図表 2 資材作成委員会 構成員

氏名	所属
濱口 欣也	公益社団法人 日本医師会 常任理事
大須賀 穰	公益社団法人 日本産科婦人科学会 監事
種部 恭子	公益社団法人 日本産婦人科医会 常務理事
塚田 訓子	公益社団法人 日本産婦人科医会 女性保健委員会委員
福嶋 孝子	一般社団法人 秋田県医師会 常任理事
山口 昌子	全国養護教諭連絡協議会
非公表	高校生（当事者）
土井 晴香	大学生（当事者）
非公表	大学生（当事者）※
横山 英理子	保護者（当事者の母親）
渡邊 民人	保護者（当事者の父親）

(順不同、敬称略)

※ 当事者の内1名は第二回委員会よりご出席

② 事務局

- 本事業を実施した事務局は下記のとおりである。

図表 3 事務局

氏名	所属
古屋 智子	PwCコンサルティング合同会社 ディレクター
山崎 学	PwCコンサルティング合同会社 ディレクター
志岐 直美	PwCコンサルティング合同会社 シニアマネージャー
松山 春佳	PwCコンサルティング合同会社 シニアアソシエイト
清水 式子	PwCコンサルティング合同会社 アソシエイト

③ 検討委員会開催状況

- 各回の議題は以下のとおりである。

図表 4 検討委員会 議題

回・時期	議題
第1回 令和7年12月25日	<ul style="list-style-type: none">• 事業概要のご説明• 当事者・保護者のヒアリング• アンケート案へのご意見
第2回 令和8年2月16日	<ul style="list-style-type: none">• アンケート結果の速報共有• アンケート調査・各種資材へのご意見
第3回 令和8年3月4日	<ul style="list-style-type: none">• 各種資材へのご意見• 周知活用方法へのご意見

2. アンケート調査

(1) 調査概要

- 各種資料作成のため、当事者女性の産婦人科受診に対する心理的ハードル等についての実態調査を実施した。

① 調査対象

- アンケートを実施した対象は図表 5 アンケート対象者のとおりである。

図表 5 アンケート対象者

<p>① 対象者</p>	<p>15歳～30歳の女性17,102名を対象とした事前スクリーニングにおいて、女性特有の症状・悩み・相談ごとがあると回答した者</p> <pre> graph LR A[15歳～30歳女性 17,102名] --> B[女性特有の症状・悩み・相談ごとがある] A --> C[女性特有の症状・悩み・相談ごとがない] B --> D[産婦人科受診に躊躇いがあった] B --> E[産婦人科受診に躊躇いはなかった] D --> F[調査対象] E --> G[調査対象外] </pre> <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査対象 調査対象外
<p>② 割付</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域：人口比率に基づく※割付 6区分 北海道・東北 / 関東 / 中部 / 近畿 / 中国・四国 / 九州・沖縄 年齢：人口比率に基づく※割付 3区分 15-19歳 (29.7%) / 20-24歳 (31.6%) / 25-30歳 (38.7%) ※総務庁統計局 令和2年国勢調査 人口等基本集計に基づく

② 調査方法

- インターネット調査会社のモニタを対象としたオンラインによるアンケート調査

③ 調査期間

- 2026年01月30日(金)～2026年02月04日(水)

④ 調査項目

- 付録1に調査項目を記載した。
- 当事者女性の産婦人科受診について、受診前、受診中、受診後の思いの変化、相談意向・行動や情報収集の意向を聴取できるよう項目設計した。
- 第1回委員会にて、構成員からアンケート項目案について意見を募り、反映した。当事者や養護教諭に内容を確認していただき、当事者にとって回答しやすい内容を精査した。

【大項目】

- 基本情報
- 受診に関する経験と背景
- 相談行動
- 産婦人科の受診体験（受診前、受診中、受診後に感じたこと）
- 情報収集・認知
- 今後の展望・ニーズ

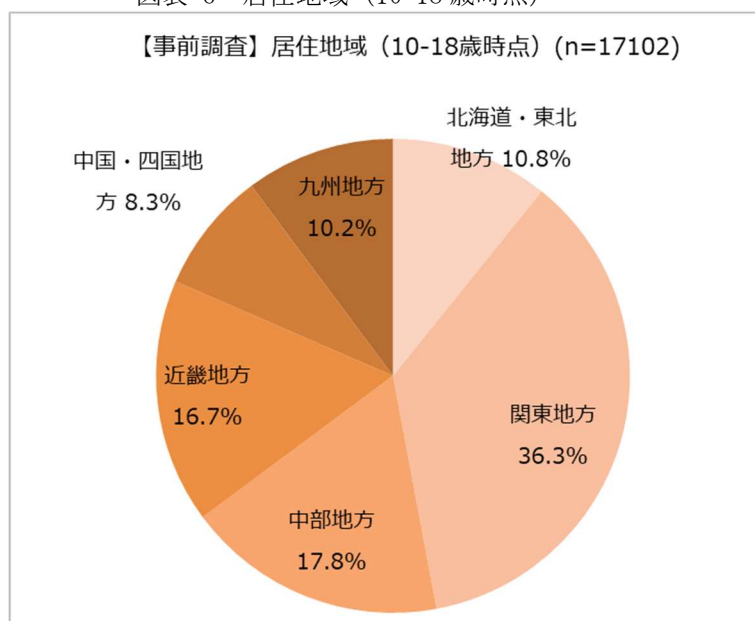
(2) アンケート調査結果

- 本項では、アンケートを実施した結果を以下の通り取りまとめた。
- 事前調査でスクリーニングを行い、本調査では 15～30 歳の女性 9,287 名から回答が得られた。

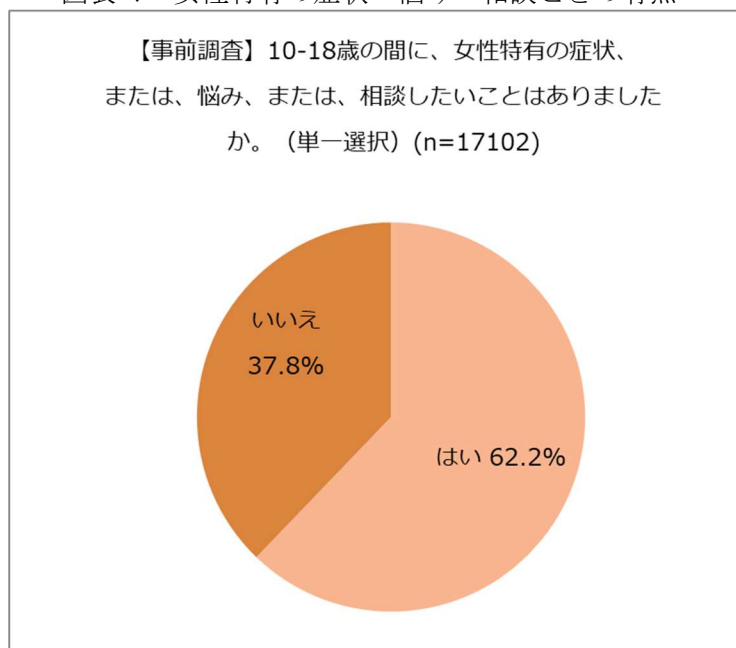
① 事前調査

- インターネット調査会社の 15～30 歳の女性のモニタ 17,102 名に対して、居住地と女性特有の症状・悩み・相談ごとの有無を調査した。
- 女性特有の症状・悩み・相談ごとがあると回答した 10,641 名(62.2%)を人口比率に応じた年齢・地域割付を行い、9,287 名を本調査対象とした。

図表 6 居住地 (10-18 歳時点)



図表 7 女性特有の症状・悩み・相談ごとの有無



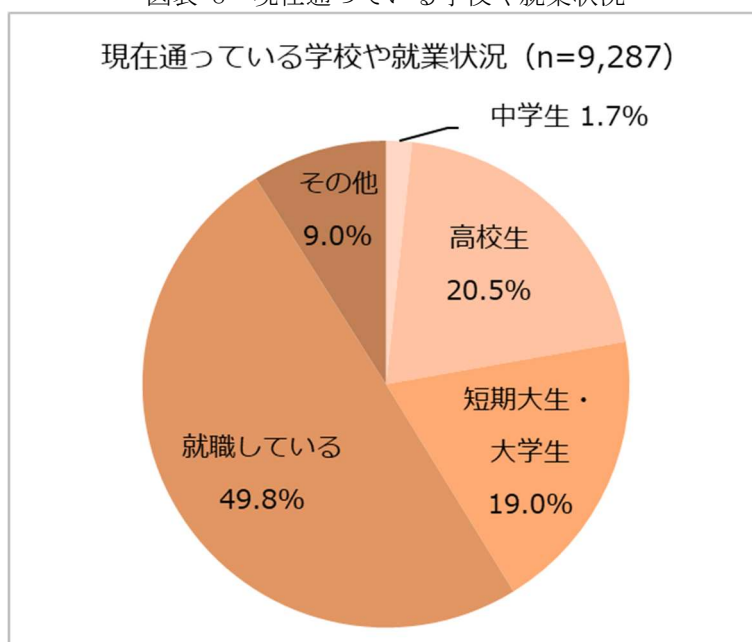
② 本調査

- 事前調査 (n=17102) のうち、10～18 歳の中に女性特有の症状、または、悩み、または、相談したいことがあった、15～30 歳の女性 9,287 名から回答が得られた。

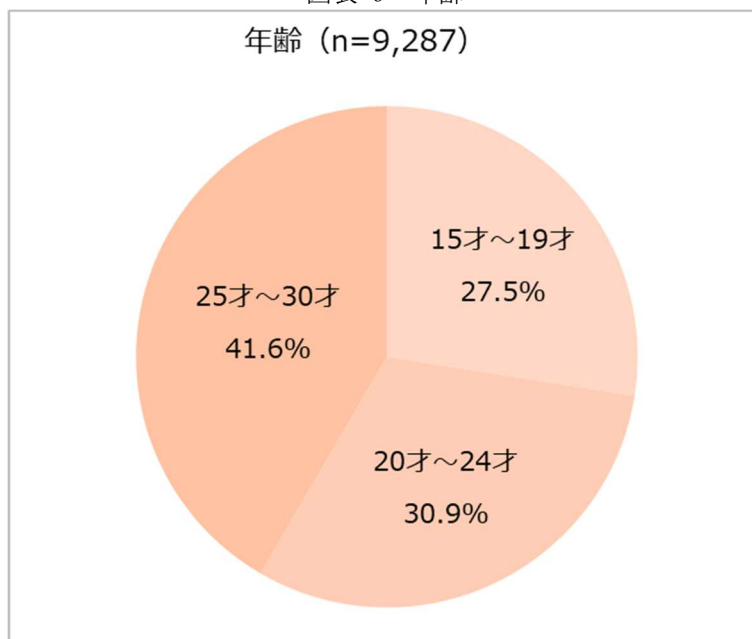
(ア) 基本属性

- 現在通っている学校や就業状況、年齢、居住地域 (10-18 歳時点)、家族構成について、以下に回答が得られた。

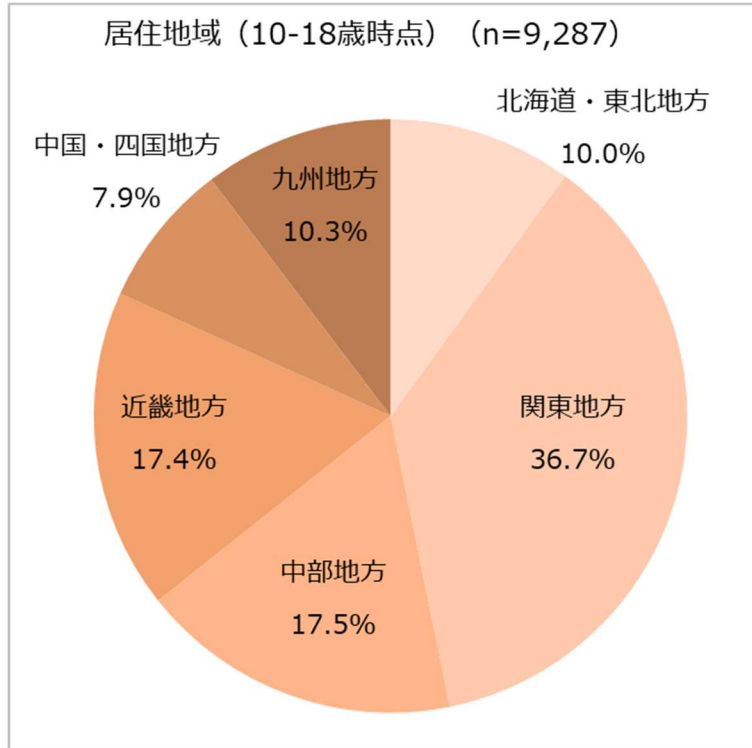
図表 8 現在通っている学校や就業状況



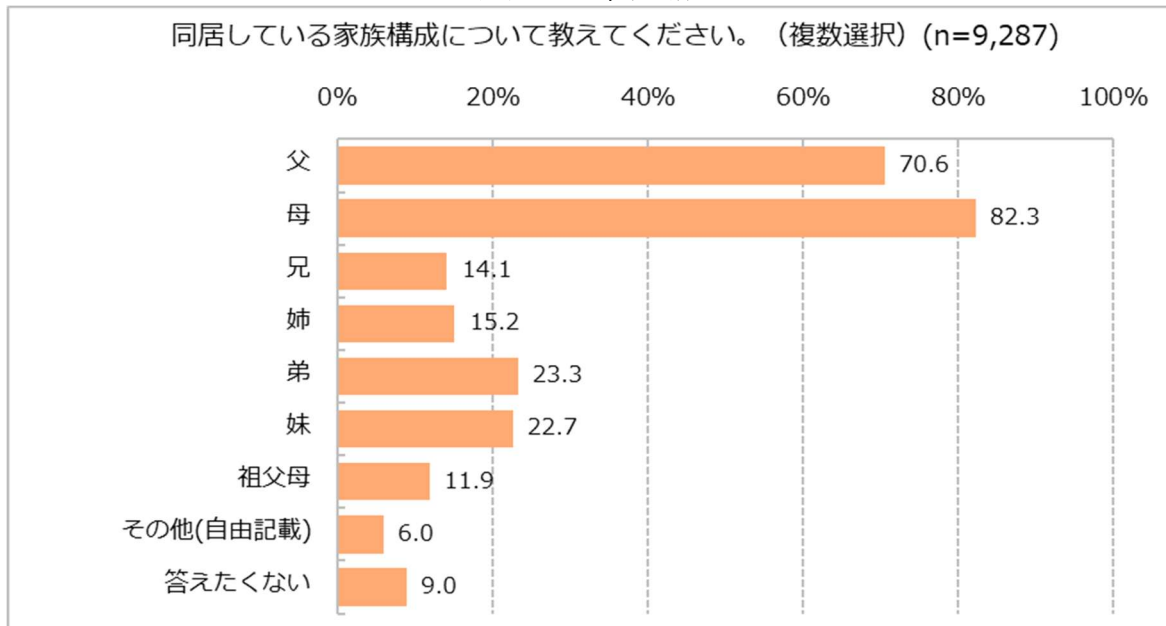
図表 9 年齢



図表 10 居住地域 (10-18 歳時点)



図表 11 家族構成

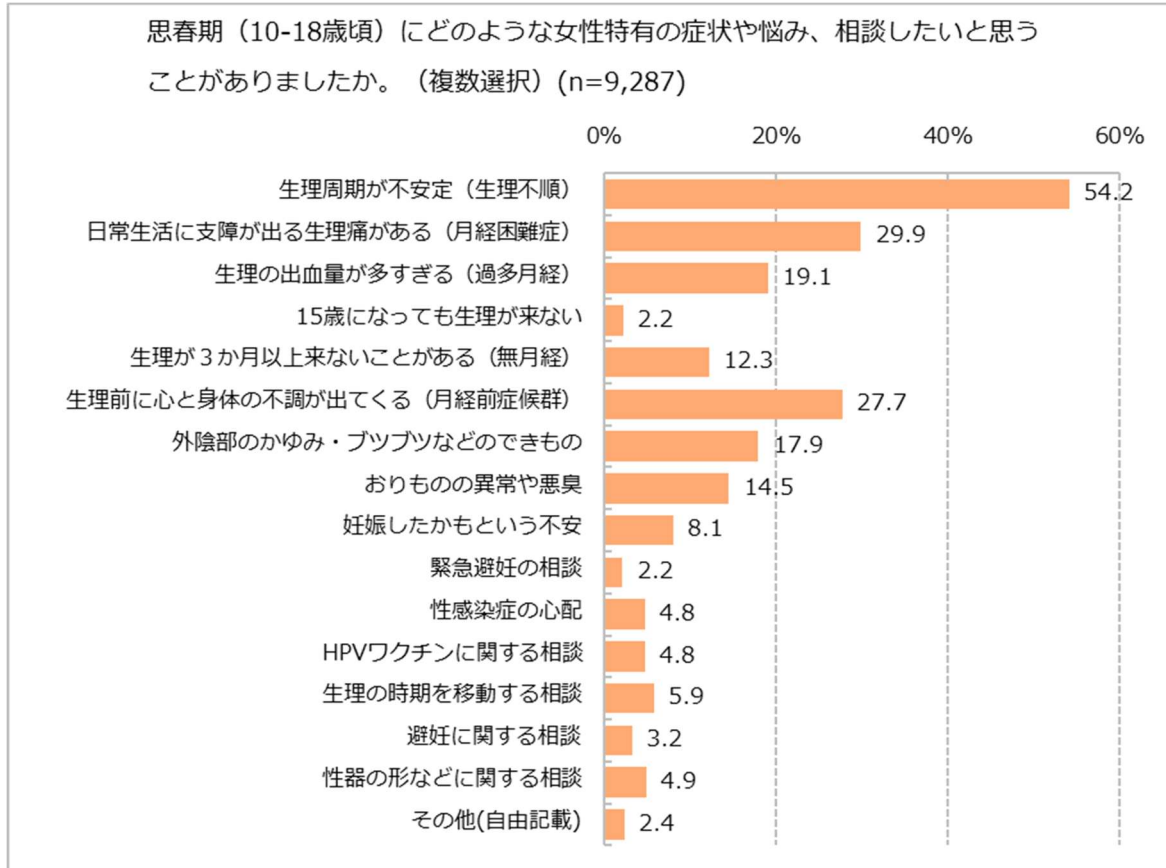


(イ) 女性特有の症状や悩みに関する経験

I. 症状や悩み、相談したいと思うこと

- 女性特有の症状や悩み、相談したいと思うことは、「生理周期が不安定（生理不順）」（54.2%）、「日常生活に支障が出る生理痛がある（月経困難症）」（29.9%）、「生理前に心と体の不調が出てくる（月経前症候群）」（27.7%）の順に多かった。

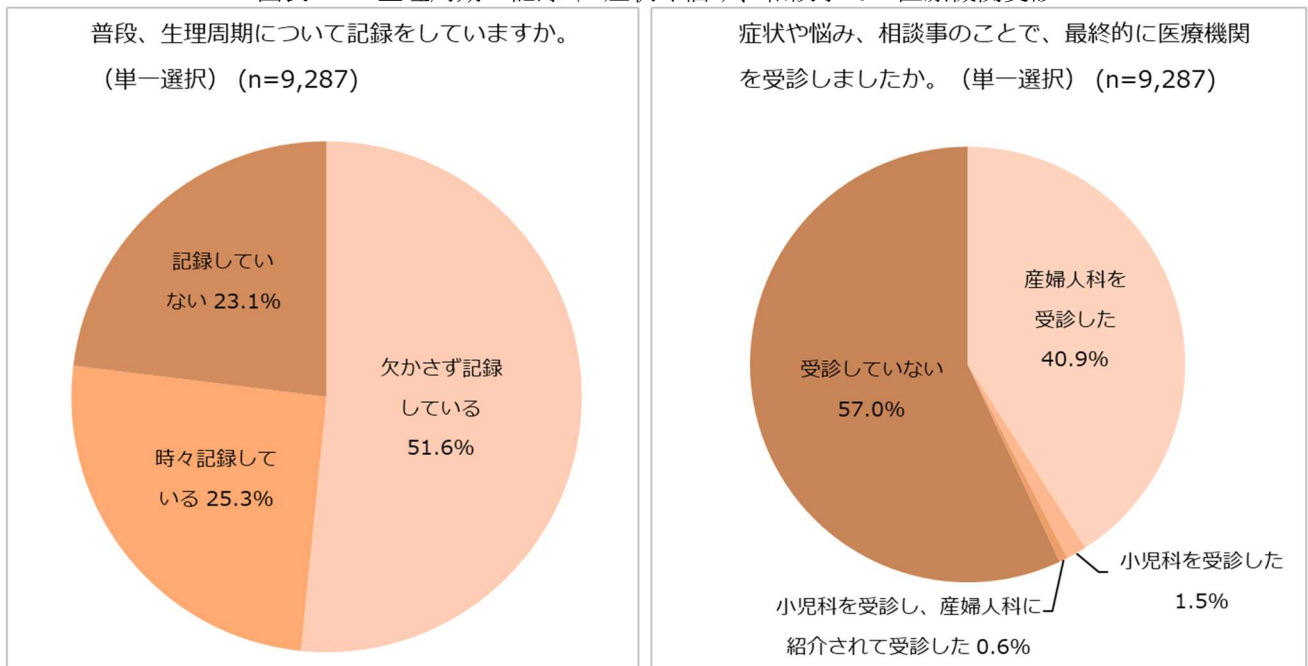
図表 12 症状や悩み、相談したいと思うこと



II. 生理周期の記録 / 症状や悩み、相談事での医療機関受診

- 普段、生理周期について「欠かさず記録している」と回答したのは51.6%であり、「欠かさず記録している」(51.6%) もしくは「時々記録している」(25.3%) と回答した者は全体の3/4を超えていたが、「記録していない」と回答したのは23.1%であった。
- 女性特有の症状や悩み等がある者のうち、「産婦人科を受診した」と回答した者は40.9%であった。

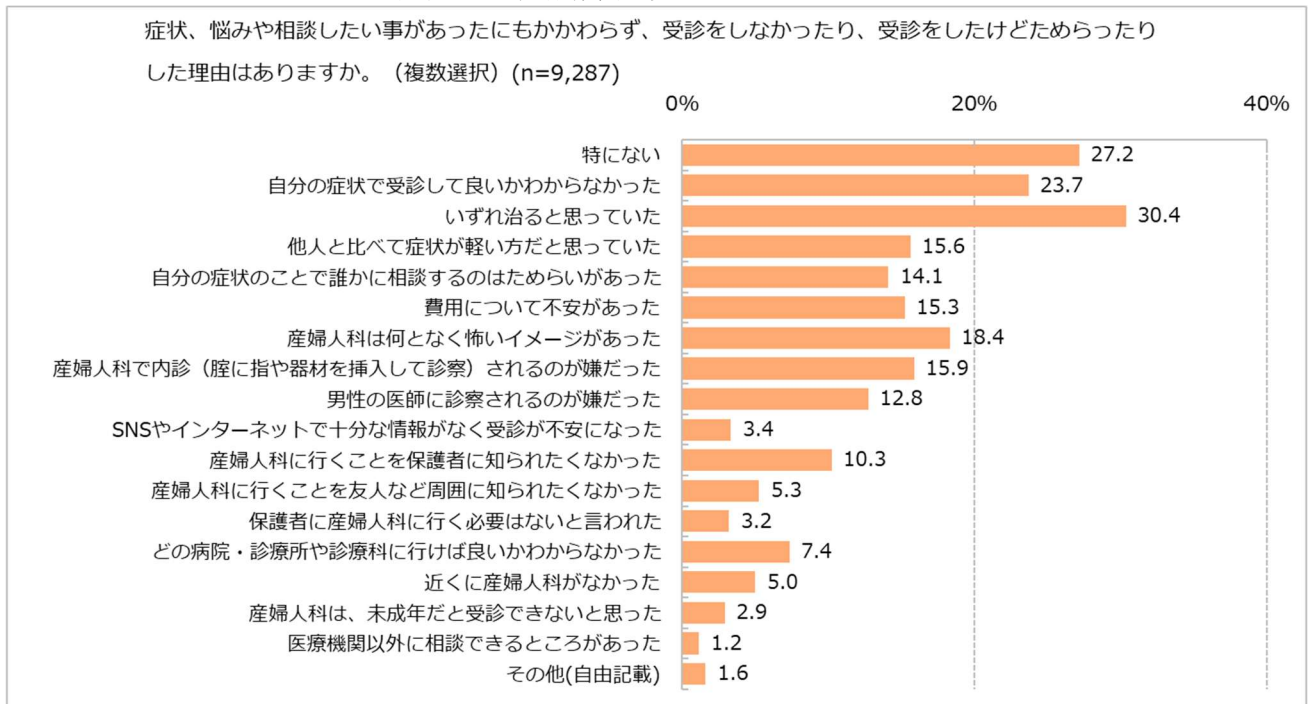
図表 13 生理周期の記録 / 症状や悩み、相談事での医療機関受診



III. 医療機関の受診をためらった理由

- ためらった理由を「特にない」と回答する者が 27.2%いる一方、「いずれ治ると思っていた」(30.4%)、「自分の症状で受診して良いかわからなかった」(23.7%)、「産婦人科は何となく怖いイメージがあった」(18.4%) がためらった理由として上位に挙がっていた。

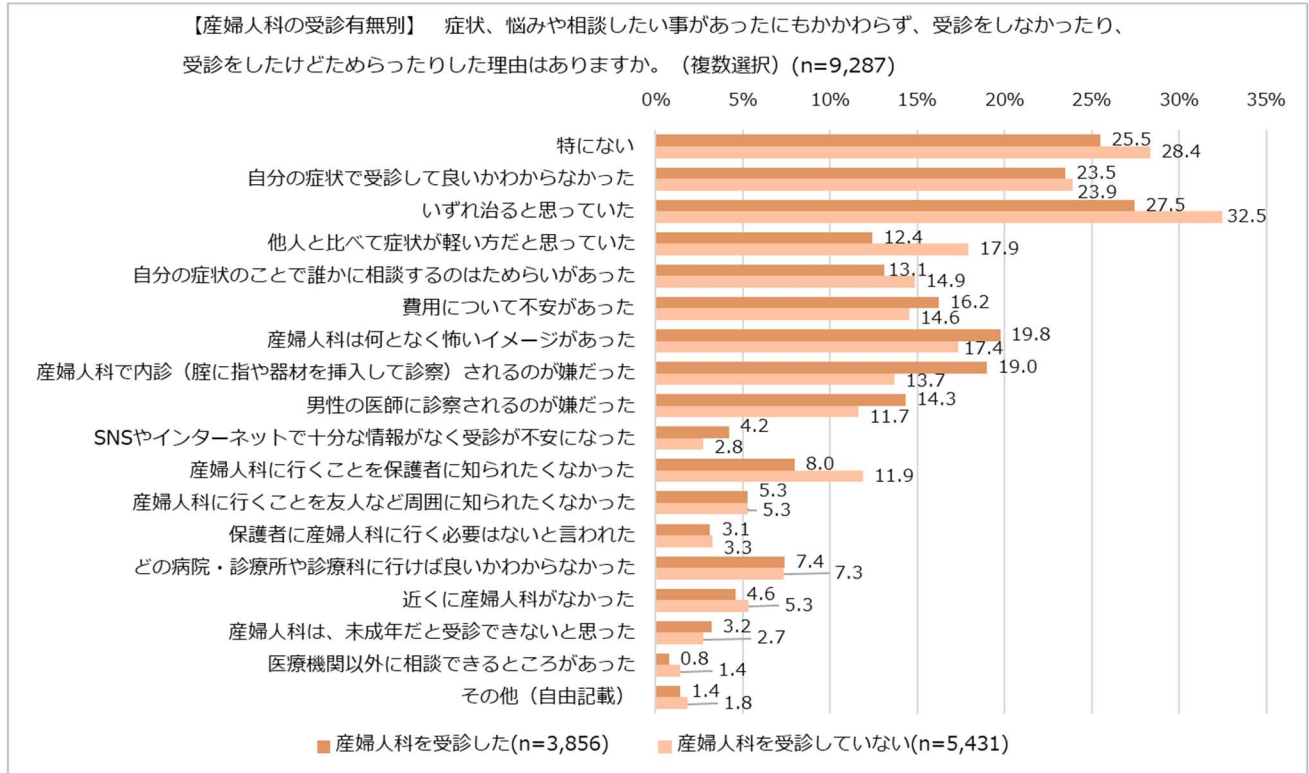
図表 14 医療機関の受診をためらった理由



IV. 医療機関の受診をためらった理由（産婦人科の受診有無別）

- 「いずれ治ると思っていた」「他人と比べて症状が軽い方だと思っていた」「保護者に知られたくなかった」は、産婦人科に受診しなかった層が受診した層より多く受診をためらった要因として挙げていた。

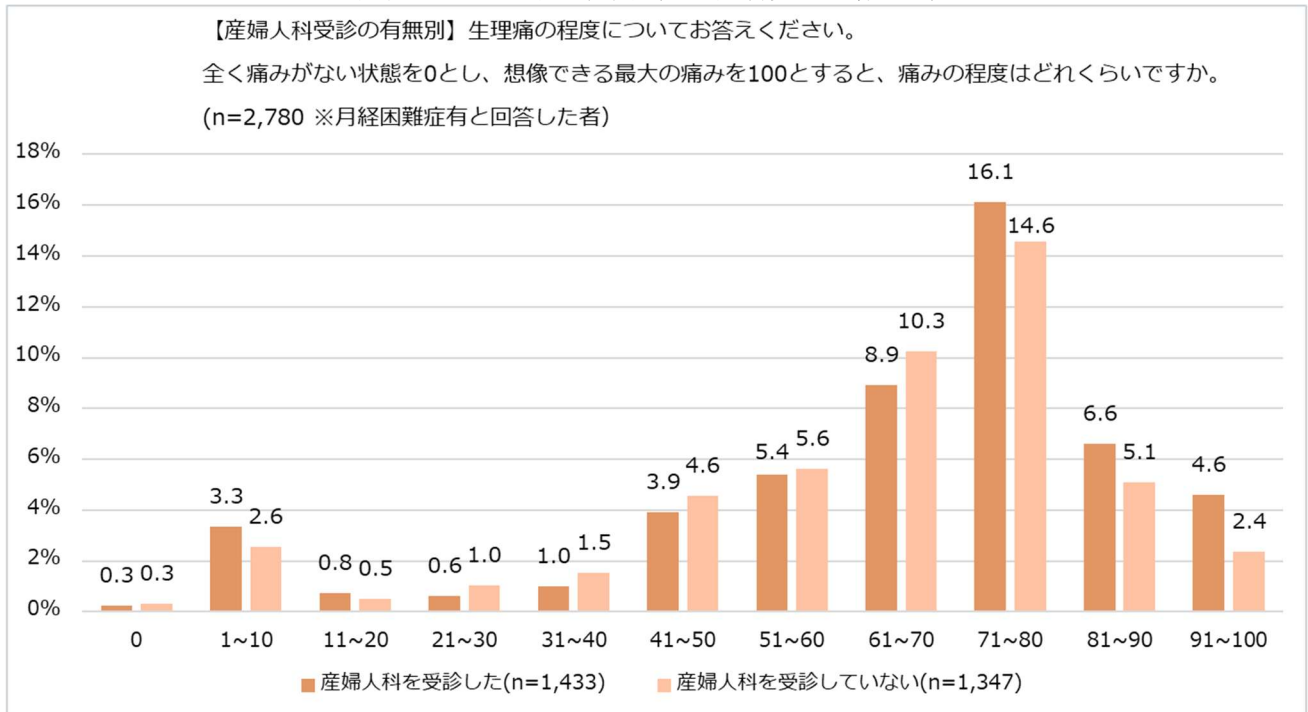
図表 15 医療機関の受診をためらった理由（産婦人科の受診有無別）



V. 生理痛の程度（産婦人科受診の有無別）

- 生理痛の程度について、71-80 と回答する者が最も多かった。自覚する生理痛の程度が71以上の者は、受診者の方が未受診者より割合が高くなっていた。

図表 16 生理痛の程度（産婦人科受診の有無別）

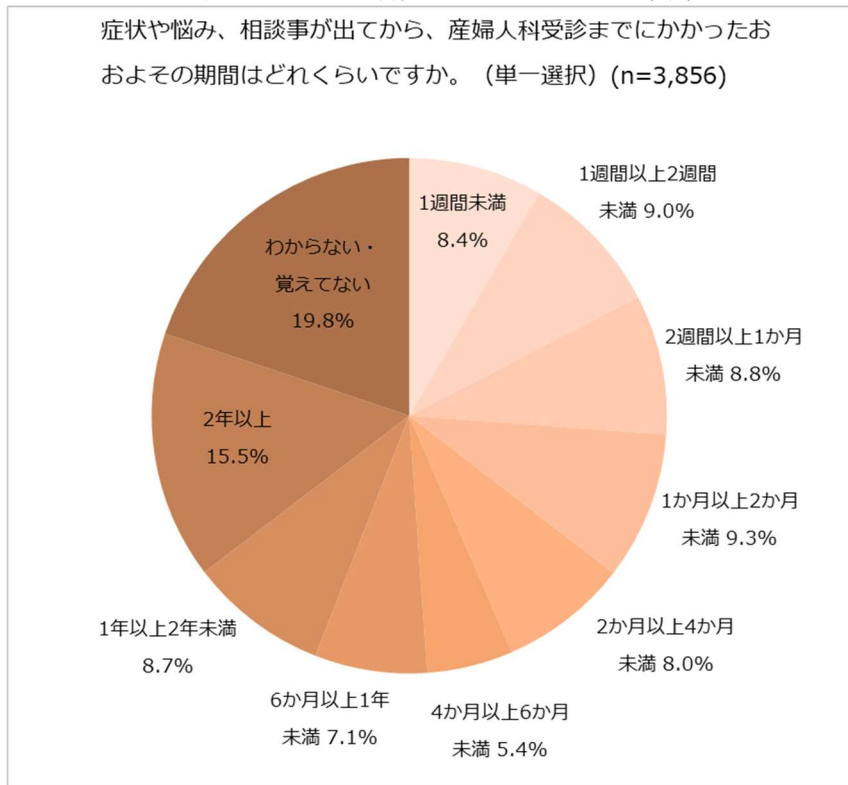


(ウ)産婦人科医療機関への受診行動（産婦人科受診した方のみ回答）

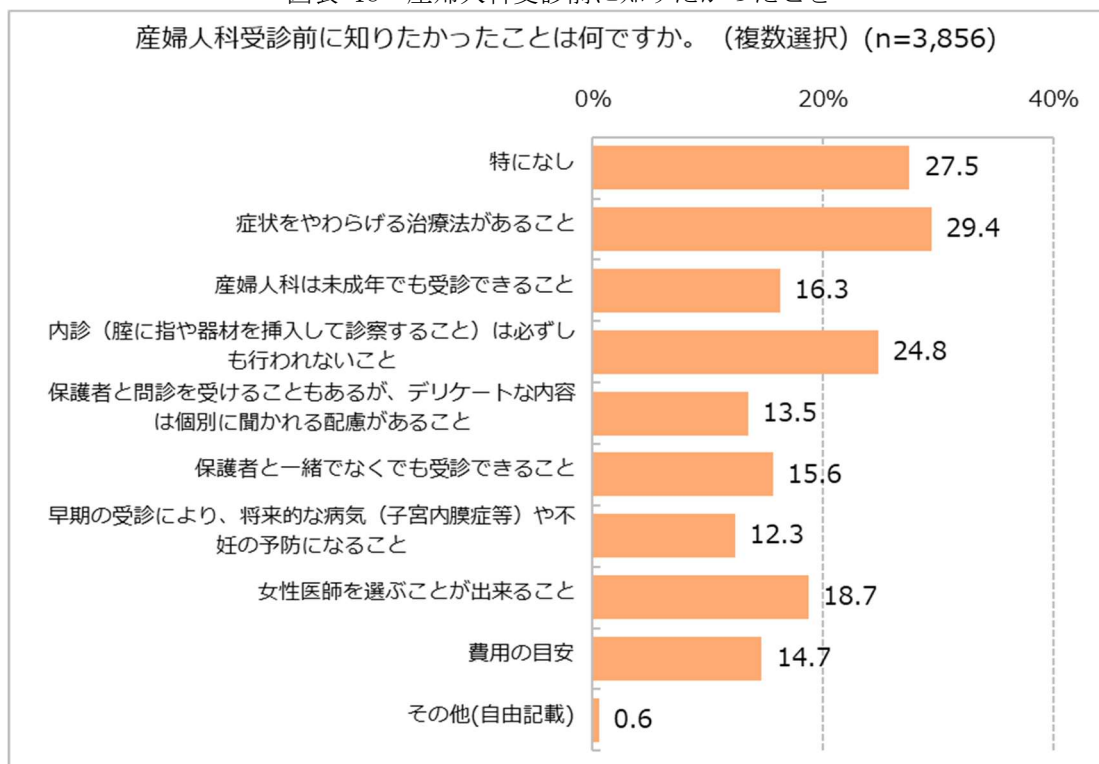
I. 産婦人科受診までにかかった期間 / 産婦人科受診前に知りたかったこと

- 症状等が出てから受診に至るまでの期間で1か月未満が26.2%、1年以上が24.2%であった。
- 産婦人科受診前に知りたかったこととして、「特になし」が27.5%いる一方、「症状を和らげる治療法があること」(29.4%)、「内診は必ずしも行われないこと」(24.8%)、「女性医師を選ぶことが出来ること」(18.7%)が上位に挙がっていた。

図表 17 産婦人科受診までにかかった期間



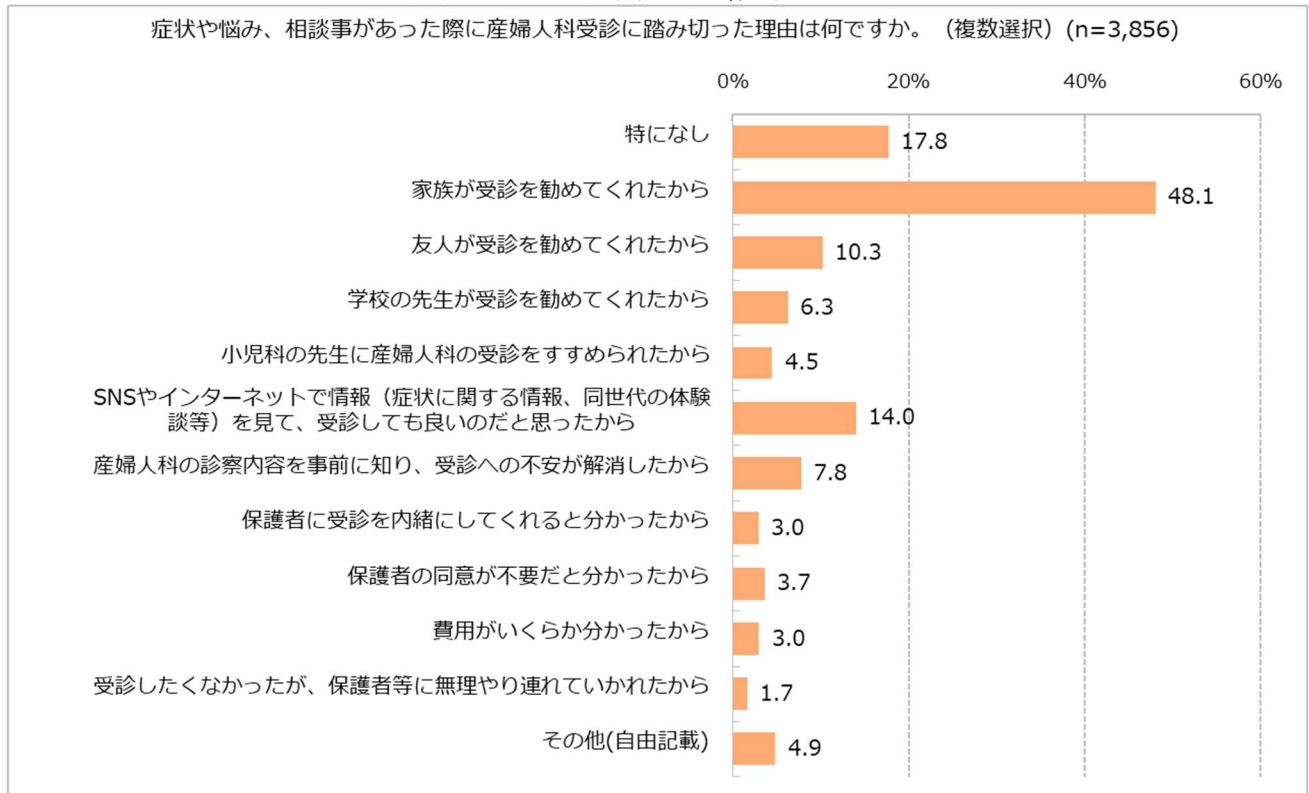
図表 18 産婦人科受診前に知りたかったこと



II. 産婦人科受診に踏み切った理由

- 受診に踏み切った理由で最も多いのは「家族が受診を勧めてくれたから」(48.1%)であった。

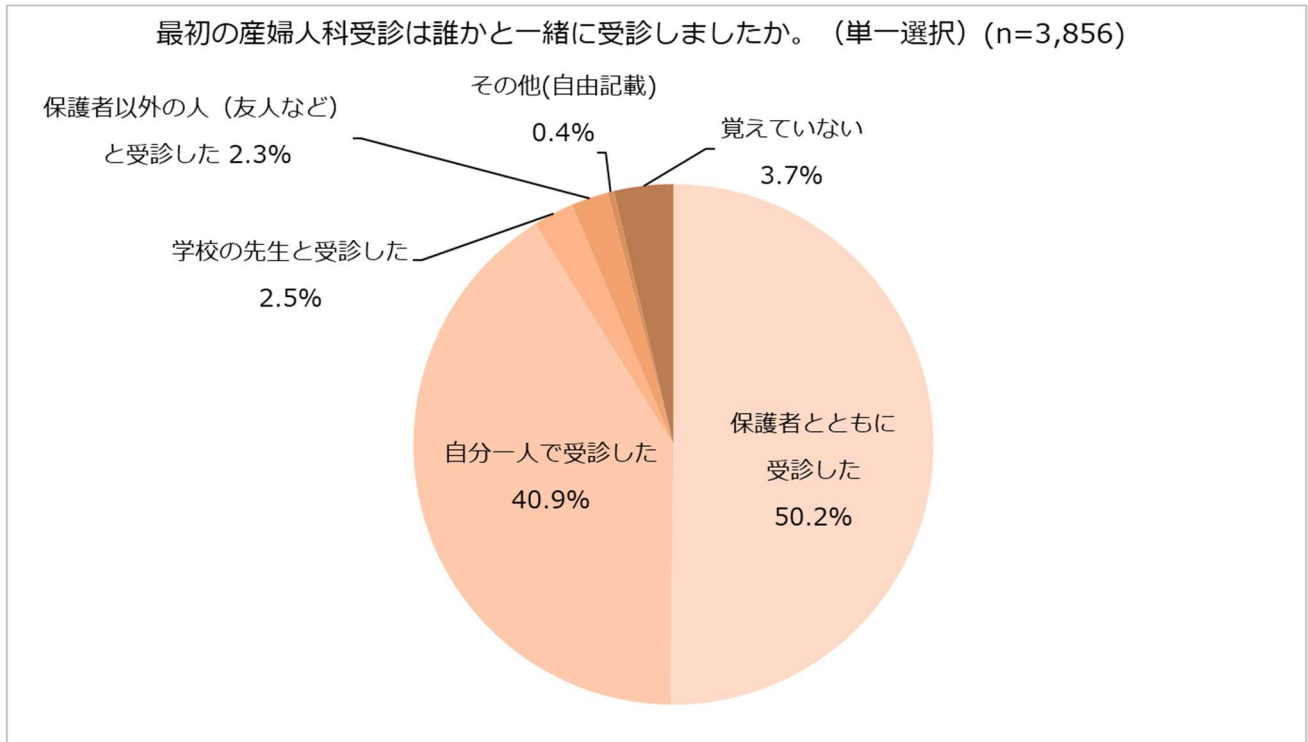
図表 19 産婦人科受診に踏み切った理由



III. 産婦人科受診の同行者

- 最初の産婦人科受診は「保護者とともに受診した」と回答した者が50.2%で最も多く、「自分一人で受診した」と回答した者が40.9%で次いで多かった。「学校の先生と受診した」や「保護者以外の人（友人など）と受診した」と回答した者の合計は4.8%であった。

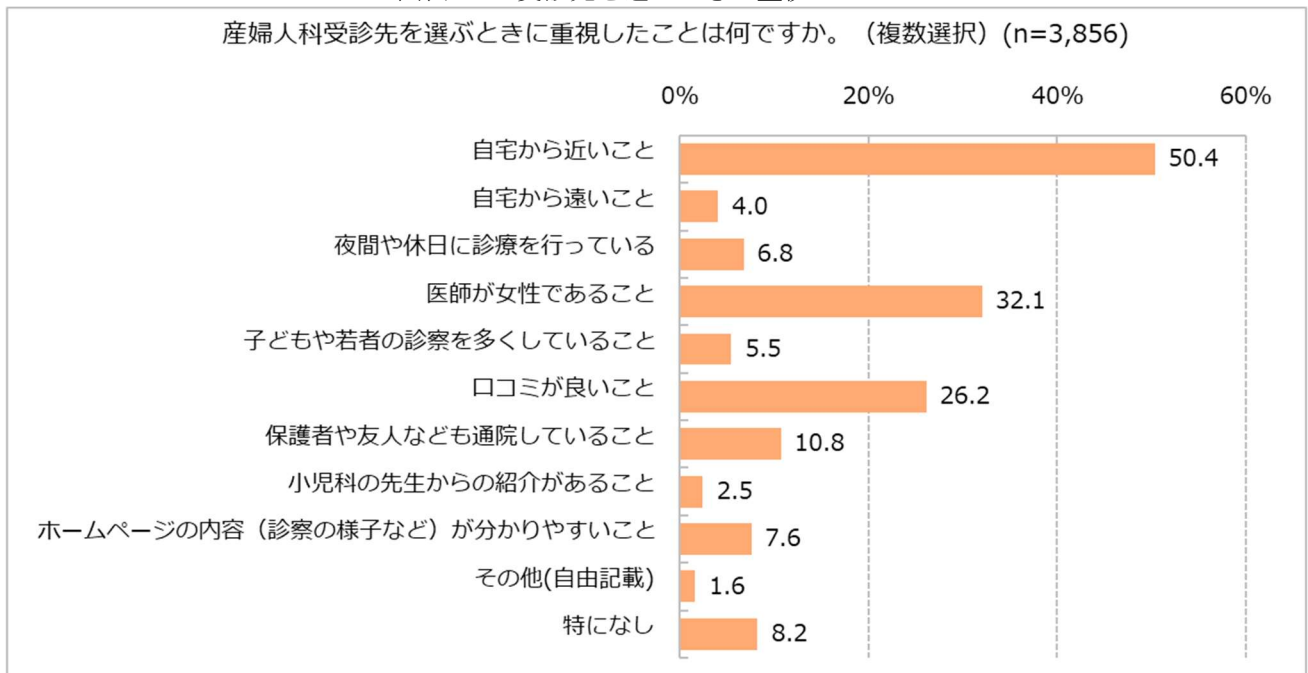
図表 20 産婦人科受診の同行者



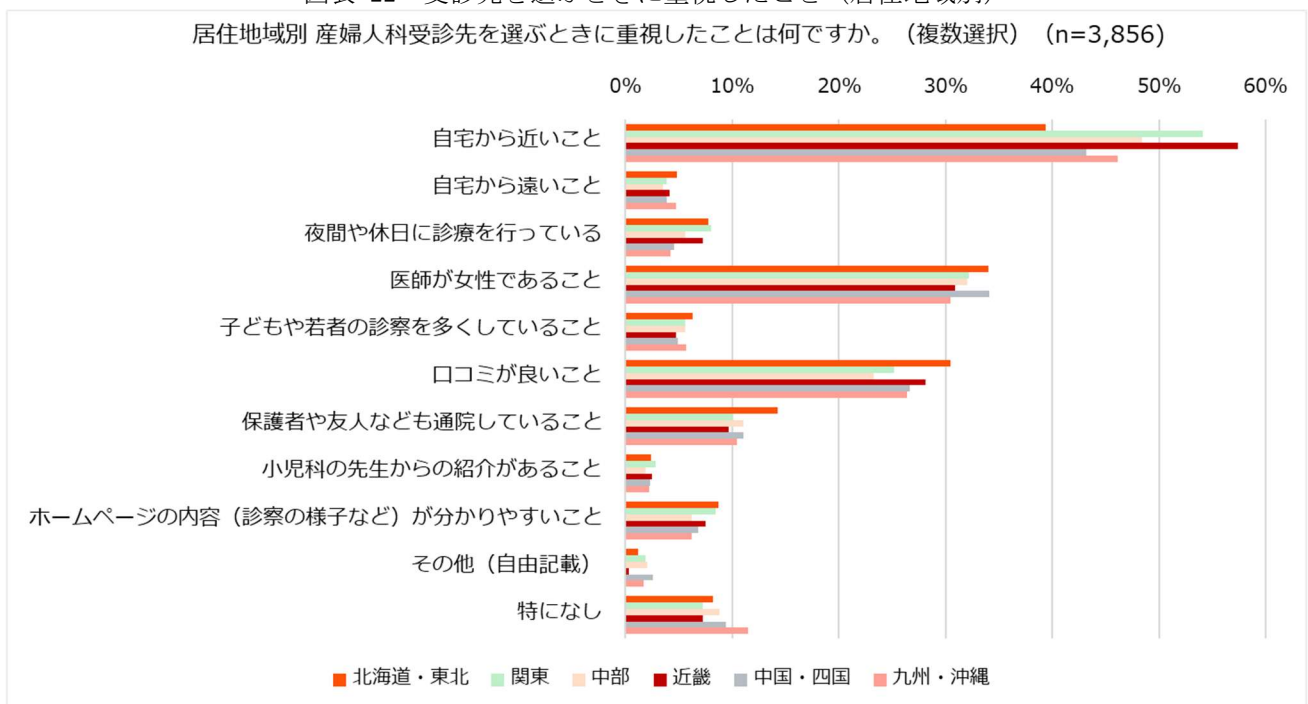
IV. 受診先を選ぶときに重視したこと / 受診した医療機関の種類

- 受診先を選ぶ際に重視したこととして、「自宅から近いこと」(50.4%)、「女医であること」(32.1%)、「口コミが良いこと」(26.2%)の順に多かった。
- 受診先を選ぶ際に重視したことを地域別にみると、関東・近畿エリアでは「自宅から近いこと」が他地域より重視する者が多かった。
- 受診した医療機関の種類は、産婦人科の診療所（レディースクリニック、ウィメンズクリニック等）が83.9%と最も多く、病院は11.4%であった。

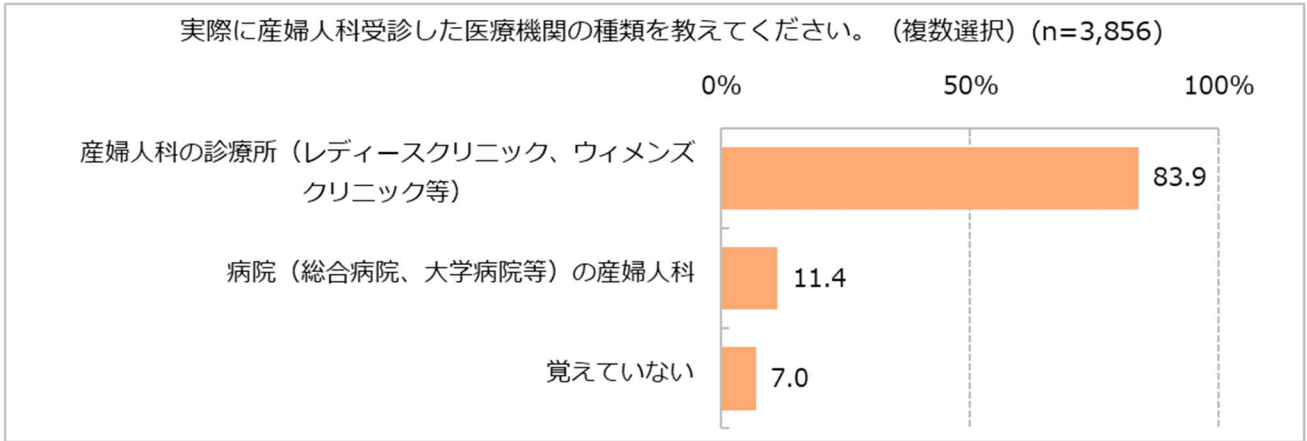
図表 21 受診先を選ぶときに重視したこと



図表 22 受診先を選ぶときに重視したこと（居住地域別）



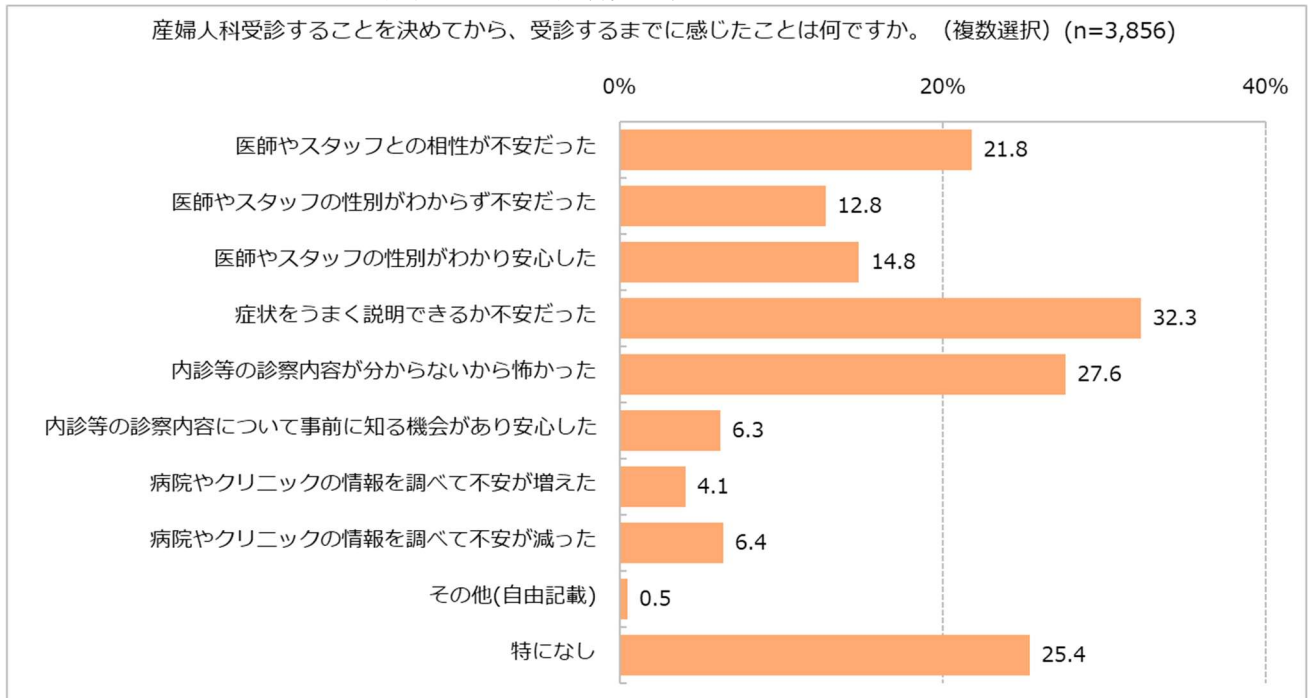
図表 23 受診した医療機関の種類



V. 産婦人科受診するまでに感じたこと

- 受診する前に感じたことで「症状をうまく説明できるか不安だった」(32.3%)、「内診等の診察内容が分からないから心配だった」(27.6%)の順に多かった。

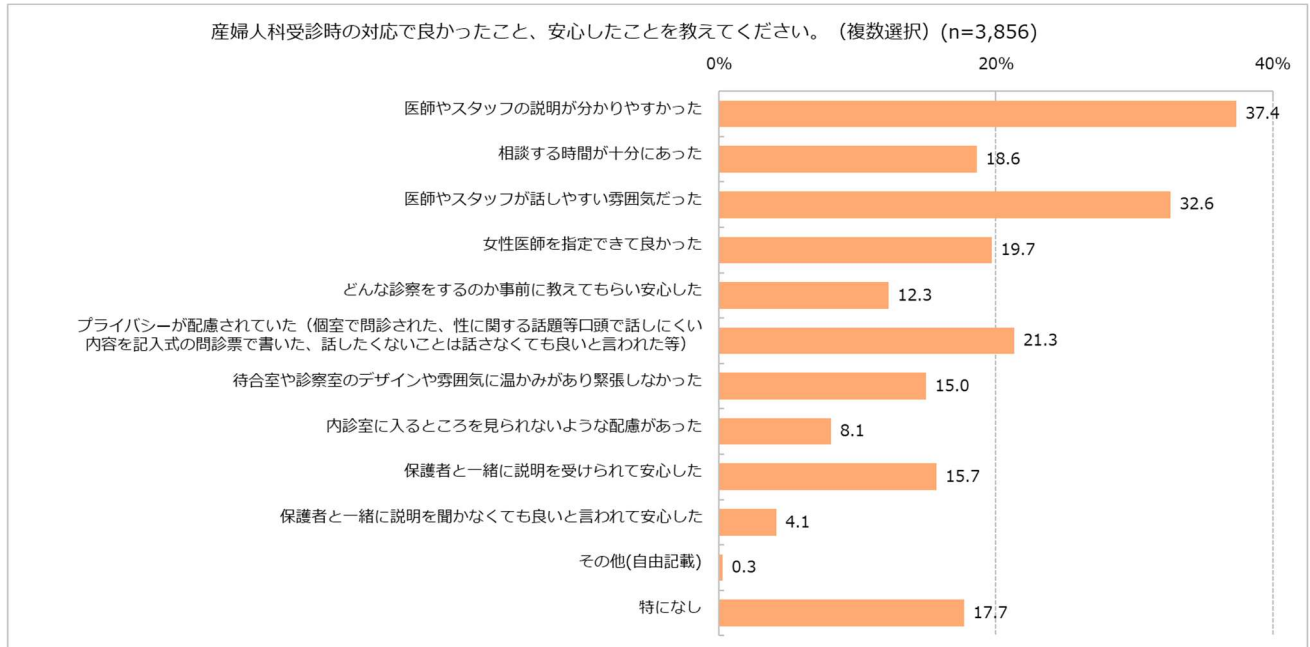
図表 24 産婦人科受診するまでに感じたこと



VI. 産婦人科受診時の対応で良かったこと、安心したこと

- 受診時の対応で良かったことは、「医師やスタッフの説明が分かりやすかった」(37.4%)、「医師やスタッフが話しやすい雰囲気だった」(32.6%)、「プライバシーが配慮されていた」(21.3%)の順に多かった。

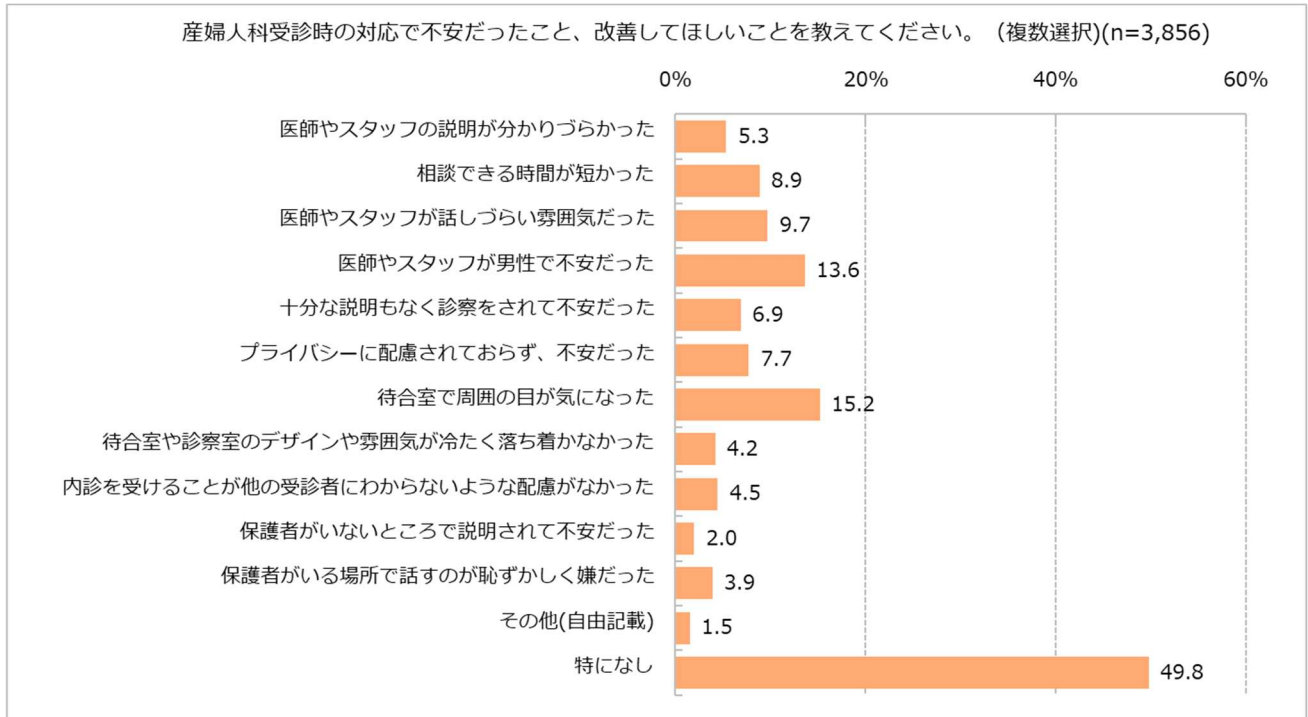
図表 25 産婦人科受診時の対応で良かったこと、安心したこと



VII. 産婦人科受診時の対応で不安だったこと、改善してほしいこと

- 受診時の対応で不安だったことは、「特になし」と回答した者が49.8%だが、それ以外では「待合室で周囲の目が気になった」(15.2%)、「医師やスタッフが男性で不安だった」(13.6%)の順に多かった。

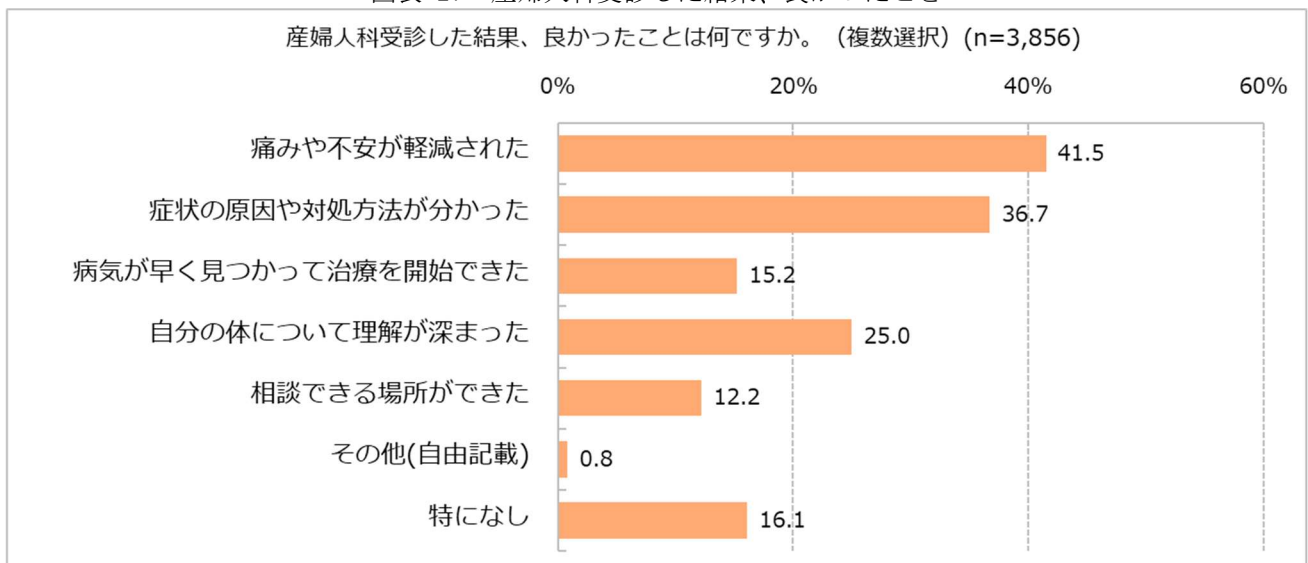
図表 26 産婦人科受診時の対応で良かったこと、安心したこと



VIII. 産婦人科受診した結果、良かったこと

- 受診した結果良かったこととして、「痛みや不安が軽減された」(41.5%)、「症状の原因や対処法が分かった」(36.7%)の順で多かった。

図表 27 産婦人科受診した結果、良かったこと

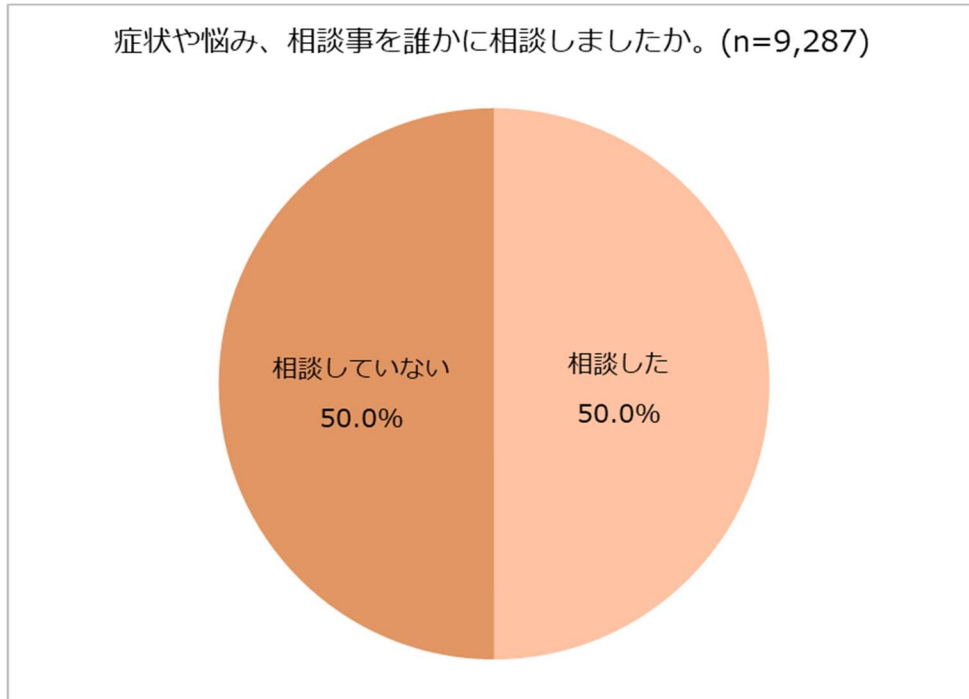


(エ) 相談行動

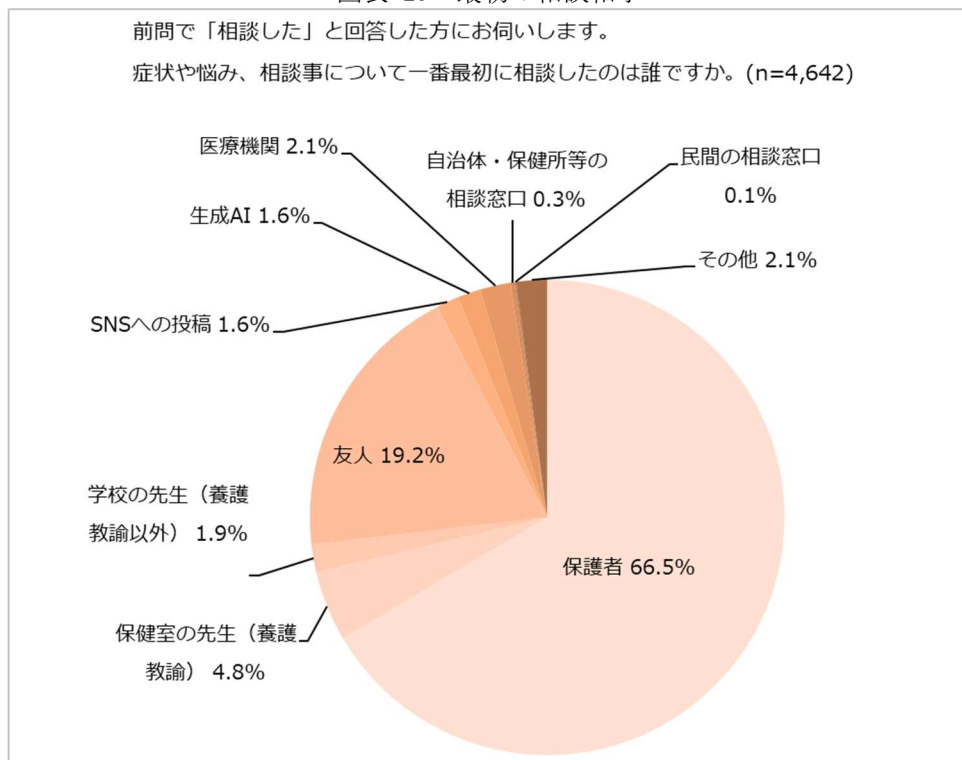
I. 症状や悩み、相談事を誰かに相談したか / 最初の相談相手

- 症状や悩み等について誰かに「相談した」と回答した者は 50.0%であった。
- 最初の相談相手は「保護者」(66.5%) が最も多かった。

図表 28 症状や悩み、相談事を誰かに相談したか



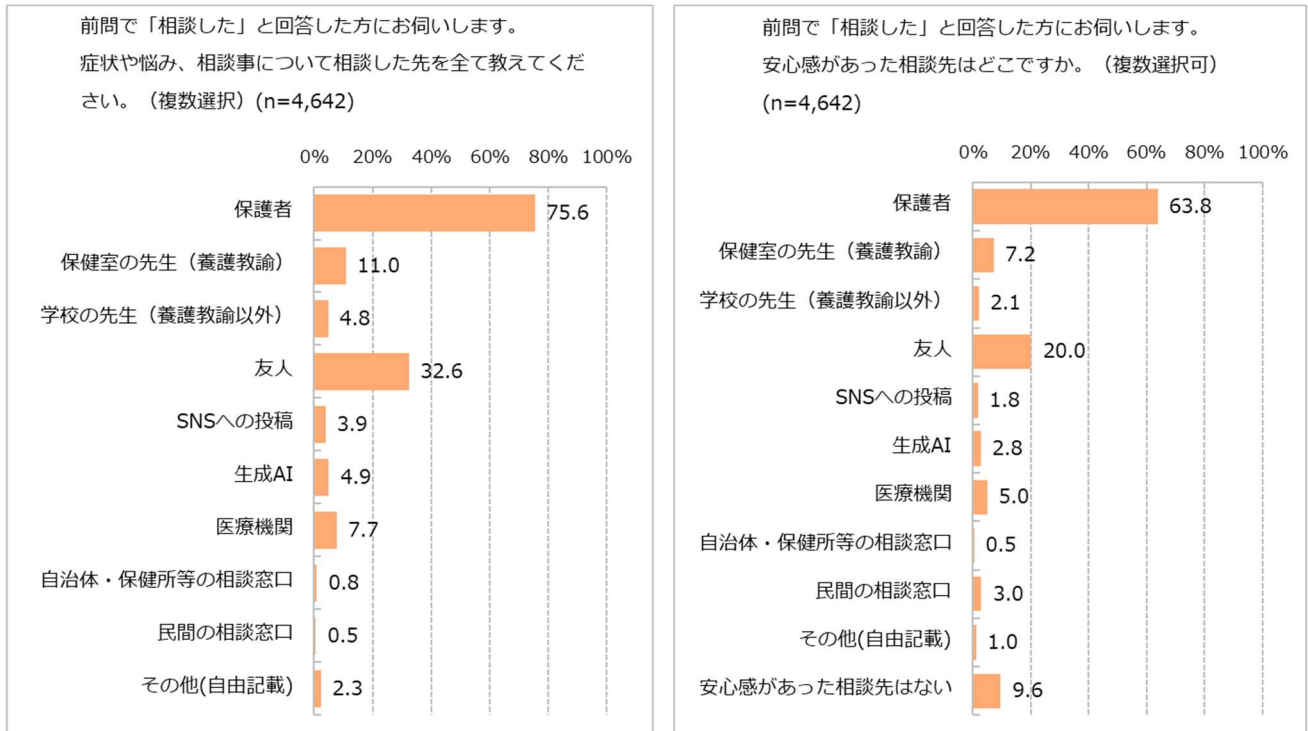
図表 29 最初の相談相手



II. 症状や悩み、相談事についての相談先 / 安心感があった相談先

- 症状や悩み、相談事の相談先として、「保護者」(75.6%)と最も多く、次いで「友人」(32.6%)が多かった。
- 安心感のあった相談先として「保護者」(63.8%)が最も多かった。

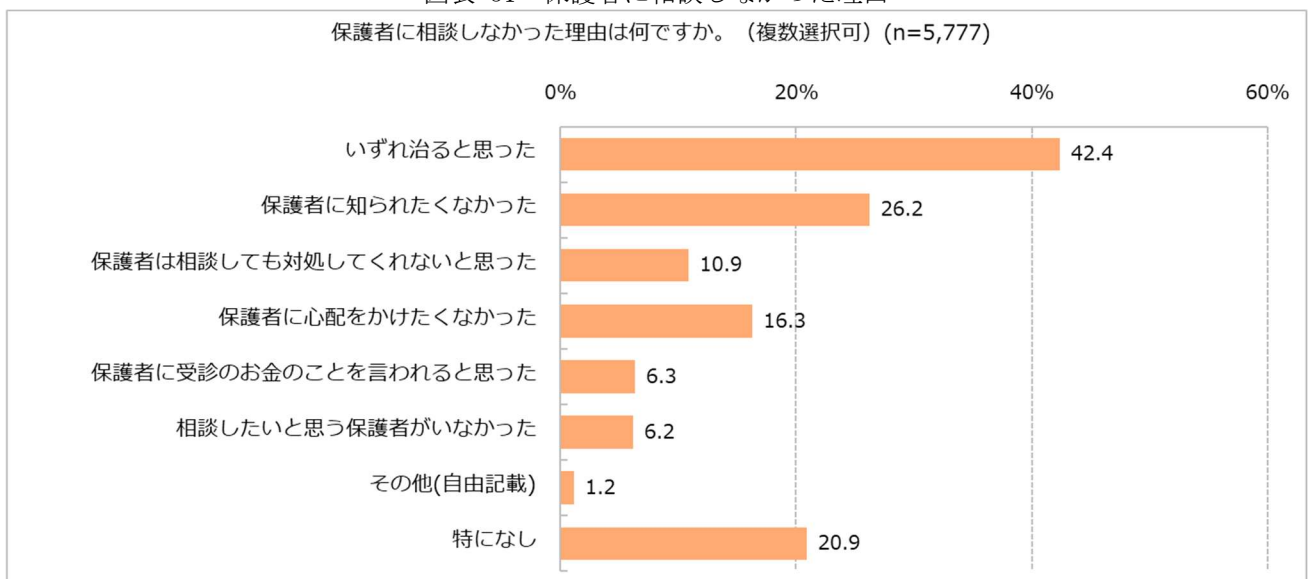
図表 30 症状や悩み、相談事についての相談先 / 安心感があった相談先



III. 保護者に相談しなかった理由

- 保護者に相談しなかった理由として、「いずれ治ると思っていた」(42.2%)、「保護者に知られたくなかった」(16.3%)の順が多かった。

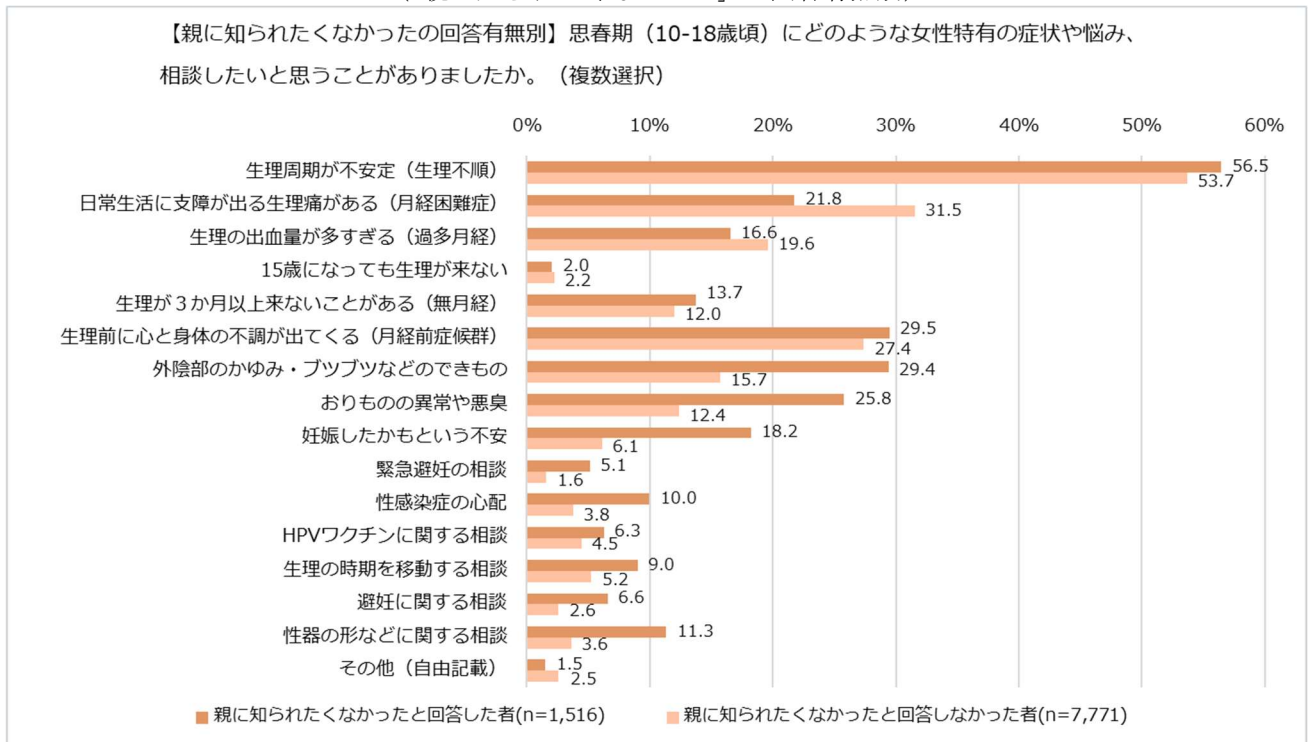
図表 31 保護者に相談しなかった理由



IV. 思春期（10-18歳頃）にあった女性特有の症状や悩み、相談したいこと（「親に知られたくなかった」の回答有無別）

- 「親に知られたくなかった」と回答した者は、「親に知られたくなかった」と回答しなかった者と比較して、「外陰部のかゆみ・ブツブツなどのできもの」「おりものの異常や悪臭」「妊娠したかもという不安」「性器の形などに関する相談」等に回答する割合が多かった。

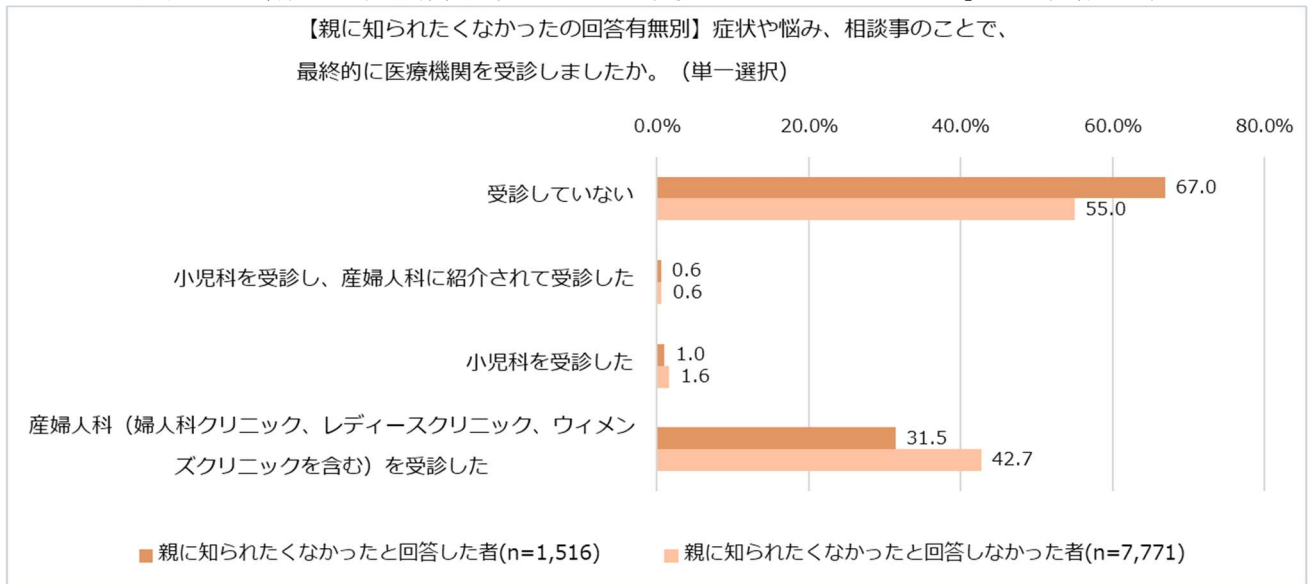
図表 32 思春期（10-18歳頃）にあった女性特有の症状や悩み、相談したいこと（「親に知られたくなかった」の回答有無別）



V. 最終的に医療機関を受診したか（「親に知られたくなかった」の回答有無別）

- 「親に知られたくなかった」と回答した者は、「親に知られたくなかった」と回答しなかった者と比較して、医療機関を受診していない者が多かった。

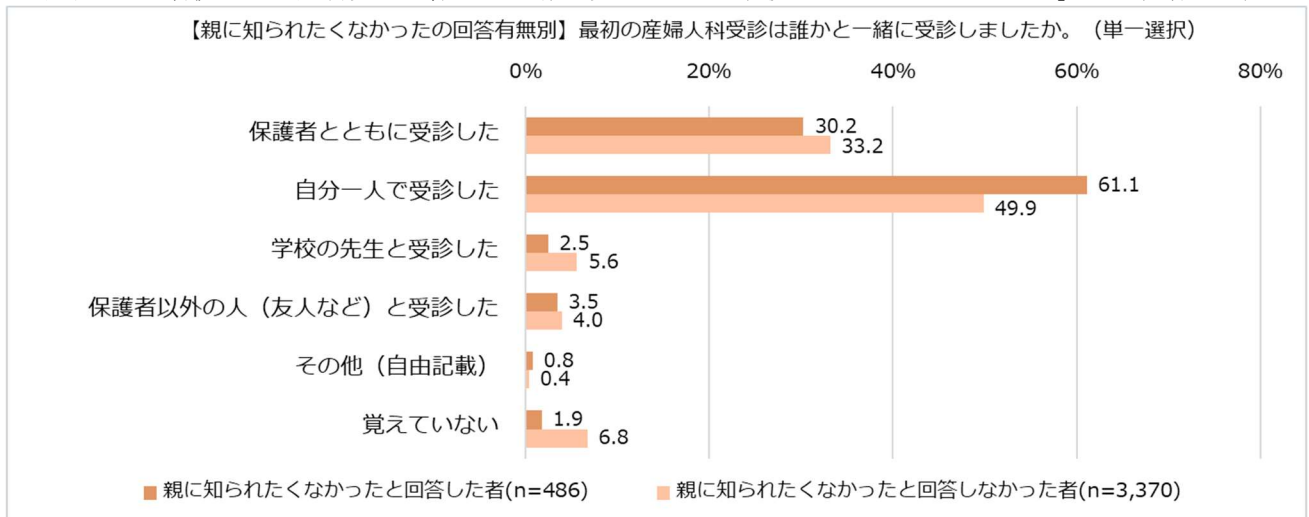
図表 33 最終的に医療機関を受診したか（「親に知られたくなかった」の回答有無別）



VI. 最初の産婦人科受診は誰かと一緒に受診したか（「親に知られたくなかった」の回答有無別）

- 「親に知られたくなかった」と回答した者は、「親に知られたくなかった」と回答しなかった者と比較して、自分一人で受診した者の割合多かった。

図表 34 最初の産婦人科受診は誰かと一緒に受診したか（「親に知られたくなかった」の回答有無別）

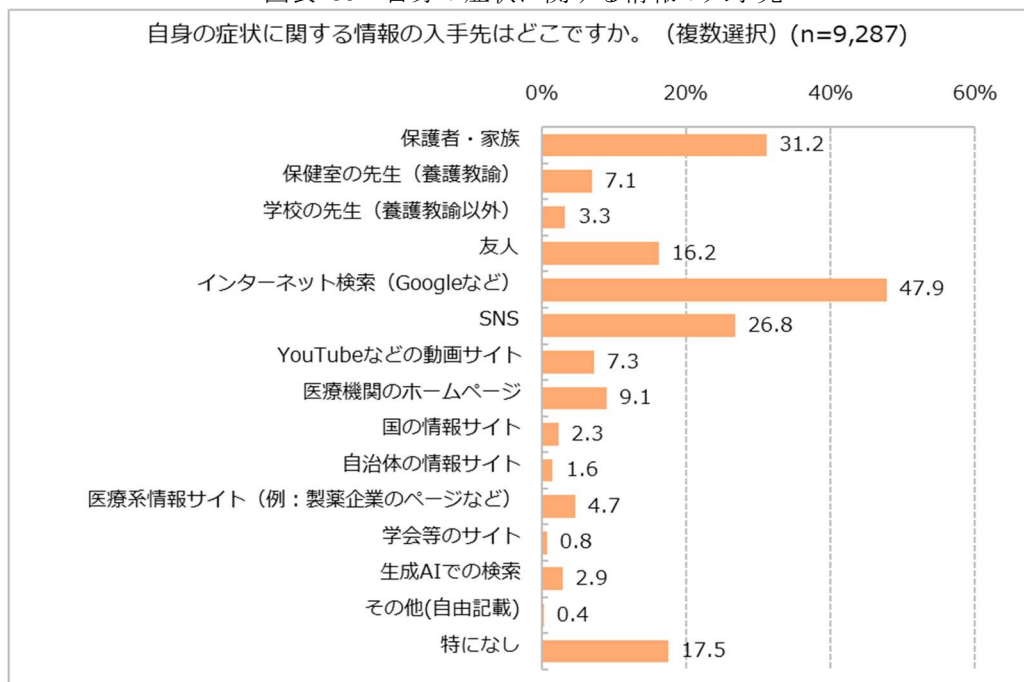


(オ) 情報収集・認知

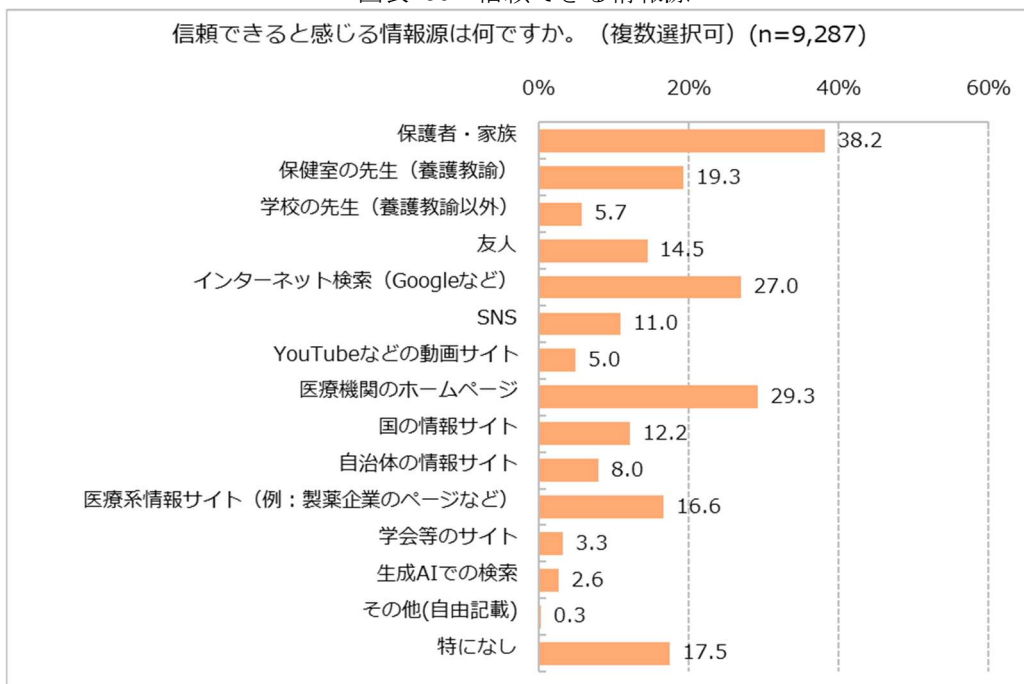
I. 自身の症状に関する情報の入手先 / 信頼できる情報源

- 情報の入手先としては「インターネット検索 (Google など)」と回答した者が 47.9%と最も多いが、信頼できると感じる情報源として「インターネット検索 (Google など)」と回答した者は 27.0%に留まっていた。
- 情報の入手先としては「医療機関のホームページ」と回答した者は 9.1%に留まるが、信頼できると感じる情報源としては「医療機関のホームページ」と回答した者は 29.3%と多かった。

図表 35 自身の症状に関する情報の入手先



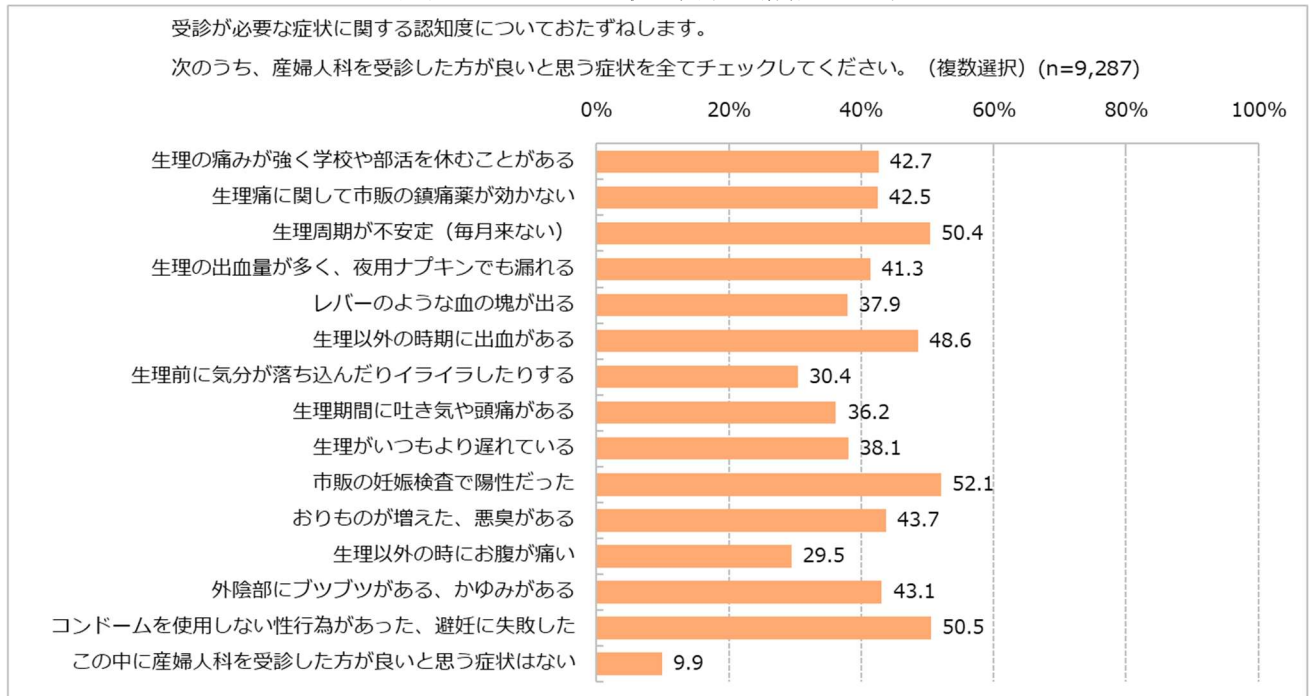
図表 36 信頼できる情報源



II. 産婦人科を受診した方が良いと思う症状

- 「この中に産婦人科を受診した方が良いと思う症状はない」と回答する者が9.9%であった。

図表 37 自身の症状に関する情報の入手先



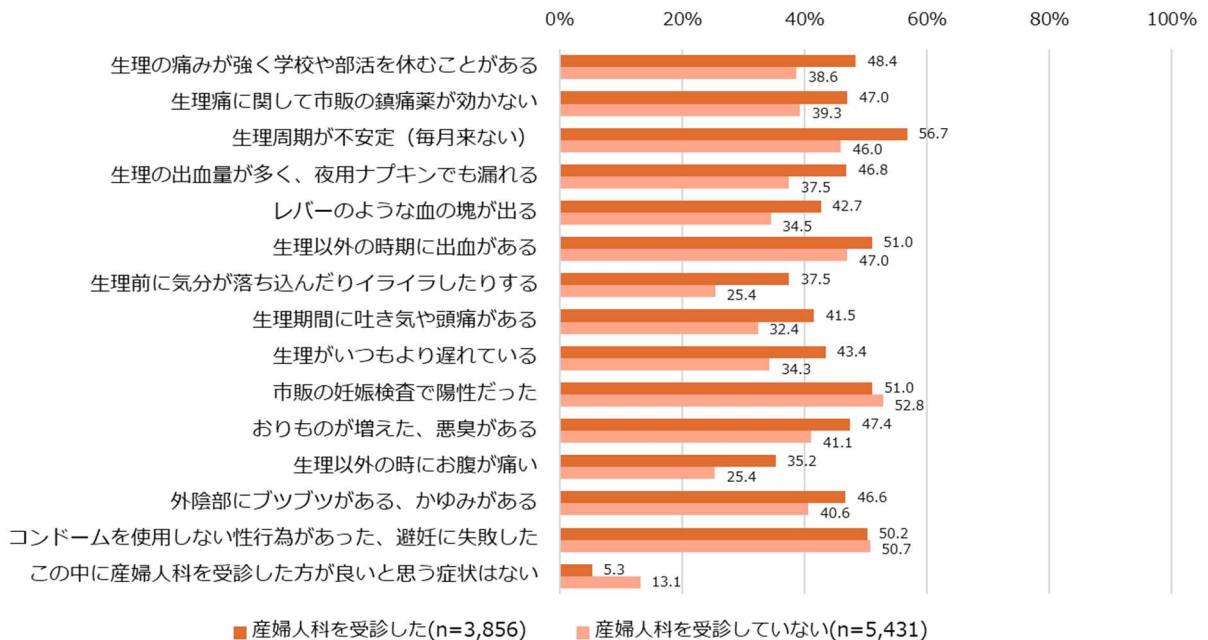
III. 産婦人科を受診した方が良いと思う症状（産婦人科受診有無別）

- 産婦人科を受診していない層は、受診した層と比較して、「この中に産婦人科を受診した方が良いと思う症状はない」と回答する者の割合が多かった。

図表 38 産婦人科を受診した方が良いと思う症状（産婦人科受診有無別）

【産婦人科受診有無別】受診が必要な症状に関する認知度についておたずねします。

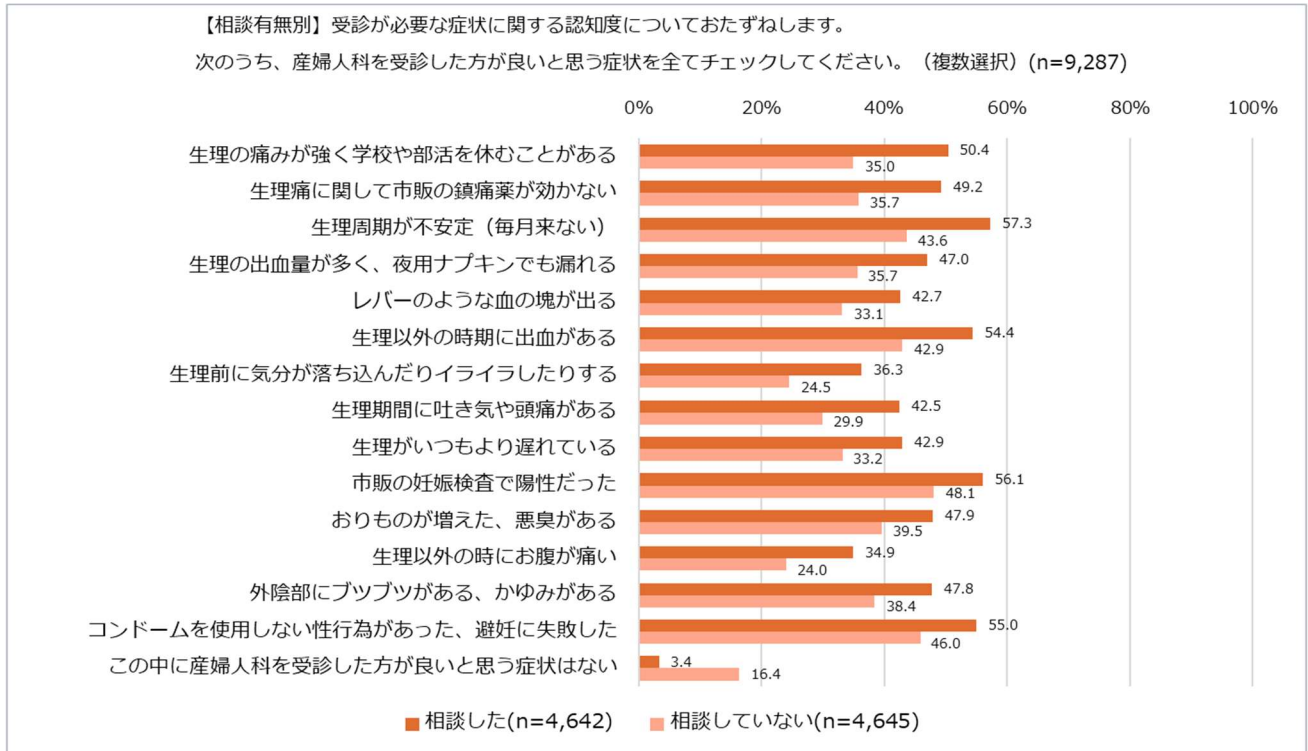
次のうち、産婦人科を受診した方が良いと思う症状を全てチェックしてください。（複数選択）（n=9,287）



IV. 産婦人科を受診した方が良いと思う症状（相談有無別）

- 受診が必要と思う症状について、症状等について相談していない者は相談した者と比較して、「この中に産婦人科を受診した方が良いと思う症状はない」と回答する者の割合が多かった。

図表 39 産婦人科を受診した方が良いと思う症状（相談有無別）



(カ)産婦人科へのニーズ

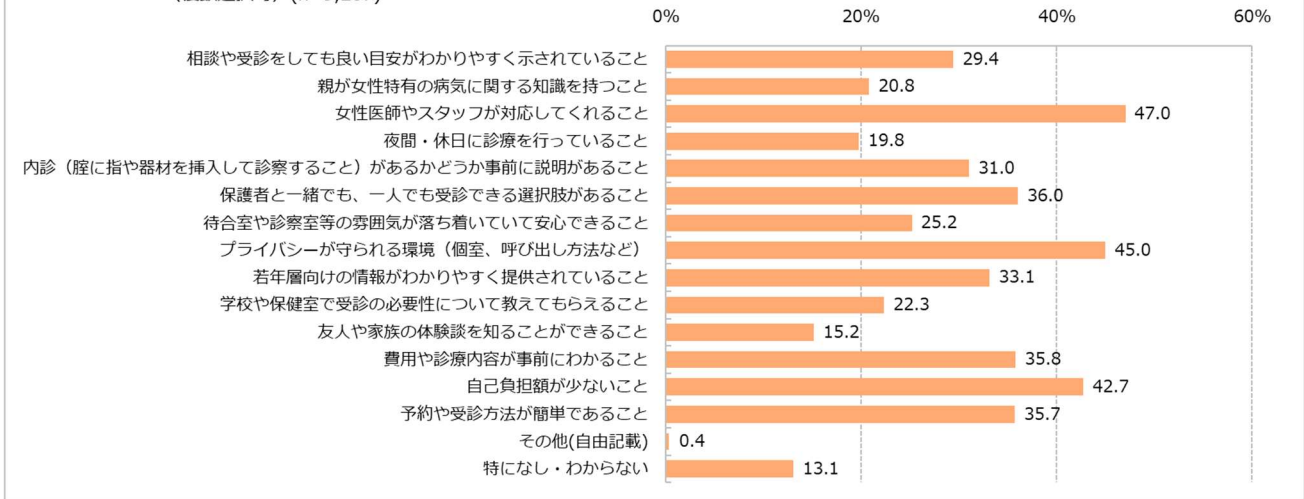
I. 産婦人科受診に対する心理的ハードルを下げるために必要だと思うこと

- 心理的ハードルを下げるために必要なことは「女性医師やスタッフが対応してくれること」(47.0%)、「プライバシーが守られる空間」(45.0%)、「自己負担額が少ないこと」(42.7%)の順に多かった。

図表 40 産婦人科受診に対する心理的ハードルを下げるために必要だと思うこと

産婦人科受診に対する心理的ハードルを下げる(不安やためらいを少なくする)ために必要だと思うことは何ですか。

(複数選択可) (n=9,287)



(3) まとめ

- 15～30歳の女性を対象とする調査において、10～18歳の思春期に女性特有の症状・悩み・相談ごとがあったのは、全体の62.2%に上ることが分かった。思春期女子の多くが、月経不順や月経困難症、PMSといった悩みを抱えながらも、「いずれ治ると思っていた」「自分の症状で受診して良いか分からなかった」「産婦人科は何となく怖いイメージがあった」といった産婦人科の症状に関する知識不足や心理的要因等により受診を躊躇っている実態が明らかになった。
- 産婦人科を受診しなかった層は、受診した層と比較して、「いずれ治ると思っていた」「他人と比べて症状が軽い方だと思っていた」「保護者に知られたいくなかった」と回答する者が多かった。「親に知られたいくなかった」と回答した者の症状・悩み・相談事では、「外陰部のかゆみ・ブツブツなどのできもの」「おりものの異常や悪臭」「妊娠したかもという不安」「性器の形などに関する相談」といったセンシティブな症状の訴えが相対的に多かった。また、医療機関の受診率や初回受診時に一人で受診する割合が低いという、アクセス障壁の高さが伺えた。「親に知られたいくなかった」と回答した者に対して、プライバシーや偏見への配慮をした環境整備が重要であることが示唆された。
- 産婦人科受診に踏み切った理由として最も多いのは、「家族が受診を勧めてくれたから」であり、保護者向け啓発資料の意義が示された。
- 実際の産婦人科の受診経験は、症状・悩み・相談事がある者のうち、40.9%にとどまっていた。また、受診までの期間は「1カ月以内」が26.2%であるのに対し「1年以上」が24.2%存在するなど、症状等を抱えながらも受診に至るまでに時間を要している者が多くいることが分かった。適切なタイミングで受診ができるよう、情報提供と環境整備の両面での介入が必要であることが示唆された。
- 医療機関の選択基準では、「自宅から近いこと」「女医であること」「口コミが良いこと」等が重視されていたが、関東・近畿では、「自宅から近いこと」が多く、その他地域では、関東・近畿と比較すると「自宅から近いこと」を選択する者が少なかったことから、地域により医療機関の選択基準が異なることが示唆された。
- 受診前に感じたことでは、「症状をうまく説明できるか不安だった」「内診等の診察内容が分からないから心配だった」が多かった。受診後に評価されたのは「医師やスタッフの説明が分かりやすかった」「医師やスタッフが話しやすい雰囲気だった」「プライバシーが配慮されていた」であり、受診後の対応の否定的意見としては最多が「特になし」であるものの、「待合室で周囲の目が気になった」「医師やスタッフが男性で不安だった」といった声も一定数みられた。わかりやすい言葉での丁寧な説明、心理的安全性を高める医療従事者やスタッフの対応、事前の診察内容の医療機関HPでの情報発信、スタッフ・医師の性別の選択肢の提示といった具体策が、思春期女性が安心して受診できるように医療機関側で実施できる有効な策になることが示唆された。これらの結果を踏まえ、産婦人科診療に関わる医療従事者が配慮すべき点をまとめたパンフレットや、思春期女性が産婦人科受診に関する不安や疑問を解消できる産婦人科Q&Aの資料を周知することが安心して受診できる環境づくりに有効であることが考えられる。
- 産婦人科を受診した方が良いと思う症状について、「どの症状なら受診すべきか」について十分に理解されていないという結果が得られており、適切な受診行動を導く実用的な目安の提示が不足していることが示された。産婦人科受診チェックリストによる受診の目安の提示が有効であると考えられる。

3. 当事者・保護者へのヒアリング

- ヒアリング方法及びヒアリング結果は以下の通りである。

(1) ヒアリング方法

- 第1回資料作成委員会の場で、委員会構成員の当事者2名及び保護者2名にヒアリングを実施した。
- ヒアリングは付録2, 3に記載のヒアリング項目を事前に当事者及び保護者に送付し、委員会で話す内容を事前に整理していただいた。
- 当事者は高校生・大学生を対象とし、保護者は10～18歳の娘を持つ者を対象とした。

(2) ヒアリング結果概要

- 当事者ヒアリングでは、思春期女性が生理症状により生活上の支障を感じながらも、自身の症状の重さや受診の目安が分からず受診を迷う実態が聴取された。保護者への相談や、保護者から受診の提案、クリニックのホームページに思春期も診療しているという旨の記載を見たことが受診の契機となっていた。また、医師による丁寧な対応が安心感につながっていた。
- 保護者ヒアリングでは、こどもに産婦人科の受診を勧めた理由として、こどもの生理症状が強く生活への影響を心配したことや、受験時期と生理が重なることを懸念したこと等が挙げられた。初めての産婦人科受診が将来の受診行動に影響するとの認識から、受診先の選定は慎重に行われていた。安心して受診できる環境として、医療機関側でのこどもが緊張しにくい雰囲気づくりが必要であるとの意見があった。また、男性保護者には生理や産婦人科に関する情報が乏しく、こどもの産婦人科受診に関与することに心理的抵抗があるため、男性保護者も含めた啓発の必要性が指摘された。

4. 各種資料

本事業で作成する資料の作成方針及び概要は以下の通りである。

- 作成方針
 - 当事者目線の確保：
思春期のこども、保護者等の当事者・関係者の意見を取り入れ、実際に役立つ内容にする
 - 信頼性の確保：
既存の資料や専門的知見との整合性を保ち、正確かつ根拠のある情報を提供する
 - 実用性の確保：
誰でも手に取りやすく、すぐ活用できるように、シンプルな構成・分量とする
- 各種資料の目的・対象・内容・活用場面は以下の通りである。資料成果物は付録4,5,6に掲載している。

(1) 産婦人科受診チェックリスト

- ① 目的
 - 思春期のこどもが必要なタイミングで産婦人科受診をできるように、医療機関受診の目安を示す。
- ② 対象
 - 症状の有無に関わらず、すべての思春期の女性、保護者
- ③ 内容
 - 産婦人科受診の目安をチェックリスト形式で示す
- ④ 活用場面
 - 症状の有無に関わらず、事前に内容を確認しておく。
 - 受診を迷ったときに該当項目がないか確認し、受診の判断の参考にする。

(2) 産婦人科受診 Q&A

- ① 目的
 - 思春期のこどもにおける、産婦人科診察に対する不安を軽減・解消する。
- ② 対象
 - 症状の有無に関わらず、すべての思春期の女性、保護者
- ③ 内容
 - Q&A形式で不安を感じやすい内容や誤解されやすい内容について解説する
- ④ 活用場面
 - 受診前に、不安を感じる内容について確認する。

(3) 医療従事者向けパンフレット

① 目的

- 医療従事者が当事者に寄り添った産婦人科診察ができるように配慮すべき点を解説する。

② 対象

- 産婦人科に従事する医療関係者

③ 内容

- 産婦人科において、当事者と関わる際に配慮すべき点を示す。

④ 活用場面

- 産婦人科診察に携わる医療従事者が当事者に寄り添った診察を確認・学習するために使用する。

(4) 活用方法

資材の周知・活用方策の案は以下のとおりである。

図表 41 各種資材の周知・活用方法（案）

資材	周知・活用方策（案）
産婦人科 チェックリスト	<ul style="list-style-type: none">こども家庭庁関連の HP や SNS で周知はじめようプレコンセプションケアのサイトに掲載 https://precon.cfa.go.jp/学校保健の現場に届くよう養護教諭を介した周知関係団体経由で各産婦人科医療機関の HP で周知
産婦人科診察 Q&A	
医療従事者向け パンフレット	<ul style="list-style-type: none">関係団体経由で各産婦人科医療機関の医療従事者に周知学術集会での発表による周知

5. まとめ

本事業の成果及び今後の課題は以下の通りである。

(1) 本事業の成果

- 本事業では、思春期のこどもが安心して産婦人科を受診できる環境を整備することを目的として、受診に関する実態調査を実施し、その結果を踏まえ、有識者・当事者・保護者から成る資材作成委員会を経て、思春期女性向けの産婦人科受診チェックリスト、産婦人科診察 Q&A、医療従事者向けパンフレットの3つ資材の作成を行った。
- 調査を通じて、月経不順や月経困難症、PMS などの悩みを抱えながらも、知識不足や心理的な抵抗感から受診をためらう実態が明らかになった。また、「いずれ治ると思っていた」「他人と比べて症状が軽い方だと思っていた自分の症状で受診して良いか分からなかった」「産婦人科は何となく怖いイメージがあった」といった受診抑制要因に加え、「親に知られたくなかった」と回答する層では、よりセンシティブな悩みを抱えつつ、医療機関の受診率や保護者同伴率が低いことも示され、受診アクセス上の課題が具体的に把握された。
- 調査結果を踏まえた上で、委員会にて有識者・当事者・保護者の意見を取り入れ、情報の信頼性を担保しつつ、当事者目線且つ実用性も確保した資材を作成したことは、本事業の大きな成果である。

(2) 今後の課題

- 今後の課題を以下4点述べる。
- 第一に、本事業で作成された資材の周知と実装を進めることである。本事業では、産婦人科受診チェックリスト、産婦人科診察 Q&A、医療従事者向けパンフレットを作成したが、これらは受診判断の支援、不安軽減、医療現場の対応改善というそれぞれ異なる側面から重要な役割を果たすことが期待される。しかし、資材は作成しただけでは十分な効果を発揮しないため、今後はこども家庭庁関連のウェブサイトや SNS、学校保健の現場、関係団体等を通じて広く周知し、対象者に実際に届く形で活用していく必要がある。さらに、単なる配布にとどまらず、どの場面で、誰が、どのように使うと効果的かを検証し、改善を重ねる視点も重要である。今後、思春期女性の当事者、保護者、医療従事者のそれぞれに対して資材がどの程度理解され、受診行動や対応改善につながったかを評価することで、本事業の成果をより持続的な政策・実践へと結び付けていくことが求められる。
- 第二に、女性保護者だけでなく男性保護者を含めた保護者への働きかけを強化する必要がある。実際に受診に踏み切った理由として「家族の勧め」が最も多いことが示されており、保護者の理解や関与が受診行動に大きな影響を及ぼしていることがわかる。今後は本人向け資材の啓発だけでなく、保護者が月経異常や月経痛、PMS 等を「よくあること」と見過ごさず、受診を勧めるべきサインを理解できるような啓発が重要となる。産婦人科受診チェックリストの対象を思春期女性だけでなく保護者も含めて作成したことは意義があると言える。女性保護者だけでなく、父親を含む男性保護者に対する支援と情報提供も重要である。また、月経や産婦人科受診に関する話題は、男性保護者は知識不足や心理的距離感から関与しにくい場合がある。しかし、家庭内で日常的にこどもの体調変化に気づき、受診を後押しする役割は、性別を問わずすべての保護者に求められる。特に、本人が女性保護者に相談しづらい場合や、ひとり親家庭、共働き家庭など多様な家庭状況を考慮すると、父親やその他の男性保護者が適切な理解を持っていることは、受診機会を確保するうえで大きな意味を持つ。今後の啓発資材や情報発信においては、男性保護者にも理解しやすい表現や導入を工夫し、月

経や思春期の婦人科的症状を家庭全体で支える健康課題として共有していく視点が必要である。

- 第三に、プライバシーや偏見に配慮した受診環境の整備を進める必要がある。「親に知られたくなかった」と回答した者において、「外陰部のかゆみ・ブツブツなどのできもの」「おりものの異常や悪臭」「妊娠したかもという不安」「性器の形などに関する相談」といったセンシティブな悩みが相対的に多くみられる一方で、医療機関の受診率や初回受診時の一人で受診する割合が多いことが示されている。これは、支援を必要とする者ほど、家族や周囲に相談しにくく、その結果として必要な医療にアクセスしづらい状況に置かれていることを示している。したがって、本事業で作成した各種資料を、単なる情報提供ツールとしてではなく、受診への心理的障壁を下げる支援手段として活用していく視点が求められる。特にプライバシーへの配慮という観点からは、本人が匿名性を保ちながらアクセスできる媒体での情報提供が重要である。学校での配布や掲示に加え、オンライン上で自然にアクセスできる導線を確保することで、家族や周囲に相談しづらい場合でも、まずは自分で情報を得て、必要に応じて受診につなげることが可能となる。本人の受診判断を支える資料、受診時の不安をやわらげる資料、そして医療従事者の対応の質を高める資料を相互に連動させることによって、プライバシーと尊厳に配慮した受診環境の実現につなげていくことが求められる。
- 第四に、地域差を踏まえた支援策の検討が求められる。医療機関の選択基準として「自宅から近いこと」「女医であること」「口コミが良いこと」などが重視されており、関東・近畿では「自宅から近いこと」が重視される一方、その他地域では、関東・近畿と比較すると「自宅から近いこと」を重視する者が少なかったことから、地域により選択基準に違いがある可能性も示唆されている。例えば、都市部では産婦人科医療機関の選択肢が比較的多い一方で、地方部ではそもそも医療機関数が限られ、女性医師の有無やアクセス距離がより大きな制約となりうる。このため、全国一律の情報提供だけでは不十分であり、地域の医療資源や通院環境を踏まえた対応が必要である。

付録

- 付録1 アンケート調査 調査票
 - 付録2 当事者ヒアリング項目
 - 付録3 保護者ヒアリング項目
 - 付録4 産婦人科受診チェックリスト
 - 付録5 産婦人科受診 Q&A
 - 付録6 医療従事者向けパンフレット
-

アンケート調査 調査票

当事者女性の産婦人科受診に対する心理的ハードル等についての実態調査

選択肢記号の説明

- 複数選択（チェックボックス）
- 単一選択（ラジオボタン）
- 単一選択（プルダウン）

【事前調査】

単一回答

Q1

10-18 歳の間に、女性特有の症状、または、悩み、または、相談したいことはありましたか。

例) 〈症状〉

- 生理周期が不安定（生理不順）
- 日常生活に支障が出る生理痛がある（月経困難症）
- 生理の出血量が多すぎる（過多月経）
- 15 歳になっても生理が来ない
- 生理が 3 か月以上来ないことがある（無月経）
- 生理前に心と身体の不調が出てくる（月経前症候群）
- 外陰部のかゆみ・ブツブツなどのできもの
- おりものの異常や悪臭 等
- 〈悩み〉
- 妊娠したかもという不安
- 緊急避妊の相談
- 性感染症の心配 等
- 〈相談したいこと〉
- HPV ワクチンに関する相談
- 生理の時期を移動する相談
- 避妊に関する相談
- 性器の形などに関する相談 等

-
- 1. はい
 - 2. いいえ
-

単一回答

Q2

10-18 歳で女性特有の症状、または、悩み、または相談したいことがあった時に、住んでいた（いる）都道府県を教えてください。

-
- 1. 北海道
 - 2. 青森県
 - 3. 岩手県
 - 4. 宮城県
-

- 5. 秋田県
- 6. 山形県
- 7. 福島県
- 8. 茨城県
- 9. 栃木県
- 10. 群馬県
- 11. 埼玉県
- 12. 千葉県
- 13. 東京都
- 14. 神奈川県
- 15. 新潟県
- 16. 富山県
- 17. 石川県
- 18. 福井県
- 19. 山梨県
- 20. 長野県
- 21. 岐阜県
- 22. 静岡県
- 23. 愛知県
- 24. 三重県
- 25. 滋賀県
- 26. 京都府
- 27. 大阪府
- 28. 兵庫県
- 29. 奈良県
- 30. 和歌山県
- 31. 鳥取県
- 32. 島根県
- 33. 岡山県
- 34. 広島県
- 35. 山口県
- 36. 徳島県
- 37. 香川県
- 38. 愛媛県
- 39. 高知県
- 40. 福岡県
- 41. 佐賀県
- 42. 長崎県
- 43. 熊本県
- 44. 大分県
- 45. 宮崎県
- 46. 鹿児島県
- 47. 沖縄県
- 48. その他

【本調査】

単一回答

Q1

現在通っている学校や就業状況を教えてください。（単一選択）

- 1. 中学生
- 2. 高校生
- 3. 短期大生・大学生
- 4. 就職している
- 5. その他【自由記載】

自由記載

Q2

10-18歳で女性特有の症状、または、悩み、または相談したいことがあった時に、住んでいた（いる）市町村を教えてください。

- 1. Q2S1【自由記載】市・町・村

複数回答

Q3

同居している家族構成について教えてください。
18歳以下の方は現在の家族構成、19歳以上の方は10-18歳の時の家族構成を教えてください。（複数選択）

- 1. 父
- 2. 母
- 3. 兄
- 4. 姉
- 5. 弟
- 6. 妹
- 7. 祖父母
- 8. その他【自由記載】
- 9. 答えたくない

複数回答

Q4

思春期（10-18 歳頃）にどのような女性特有の症状や悩み、相談したいと思うことがありましたか。（複数選択）

- 1. 生理周期が不安定（生理不順）
- 2. 日常生活に支障が出る生理痛がある（月経困難症）
- 3. 生理の出血量が多すぎる（過多月経）
- 4. 15 歳になっても生理が来ない
- 5. 生理が3 か月以上来ないことがある（無月経）
- 6. 生理前に心と身体の不調が出てくる（月経前症候群）
- 7. 外陰部のかゆみ・ブツブツなどのできもの
- 8. おりものの異常や悪臭
- 9. 妊娠したかもという不安
- 10. 緊急避妊の相談
- 11. 性感染症の心配
- 12. HPV ワクチンに関する相談
- 13. 生理の時期を移動する相談
- 14. 避妊に関する相談
- 15. 性器の形などに関する相談
- 16. その他【自由記載】

自由記載

Q5

その症状や悩み、相談事を初めて自覚したのは何才頃ですか。

- 1. Q5S1【数字】歳

自由記載

Q6

生理痛の程度についてお答えください。
全く痛みがない状態を 0 とし、想像できる最大の痛みを 100 とすると、痛みの程度はどれくらいですか。
※月によって異なる方は、平均してお答えください。

- 1. Q6S1【数字】

単一回答

Q7

普段、生理周期について記録をしていますか。

- 1. 欠かさず記録している
- 2. 時々記録している
- 3. 記録していない

単一回答

Q8

症状や悩み、相談事の中で、最終的に医療機関を受診しましたか。

※10-18歳の間で、複数の症状や悩み・相談事があった場合は最も症状がつかつたり、最も悩んだことについてお答えください。（以降の設定も同様です）

- 1. 産婦人科（婦人科クリニック、レディースクリニック、ウイメンズクリニックを含む）を受診した
- 2. 小児科を受診した
- 3. 小児科を受診し、産婦人科に紹介されて受診した
- 4. 受診していない

複数回答

Q9

症状、悩みや相談したい事があってもかかわらず、受診をしなかったり、受診をしたけどためらったりした理由はありますか。（複数選択）

- 1. 特にない
- 2. 自分の症状で受診して良いかわからなかった
- 3. いずれ治ると思っていた
- 4. 他人と比べて症状が軽い方だと思っていた
- 5. 自分の症状のことで誰かに相談するのはためらいがあった
- 6. 費用について不安があった
- 7. 産婦人科は何となく怖いイメージがあった
- 8. 産婦人科で内診（膣に指や器材を挿入して診察）されるのが嫌だった ※内診は必ず行われる訳ではありません
- 9. 男性の医師に診察されるのが嫌だった
- 10. SNSやインターネットで十分な情報がなく受診が不安になった
- 11. 産婦人科に行くことを保護者に知られたくなかった
- 12. 産婦人科に行くことを友人など周囲に知られたくなかった
- 13. 保護者に産婦人科に行く必要はないと言われた
- 14. どの病院・診療所や診療科に行けば良いかわからなかった
- 15. 近くに産婦人科がなかった
- 16. 産婦人科は、未成年だと受診できないと思った
- 17. 医療機関以外に相談できる場所があった
- 18. その他【自由記載】

単一回答

Q10

ここからは、前問で「産婦人科を受診した」もしくは「小児科を受診し、産婦人科に紹介されて受診した」と回答した方にお伺いします。
症状や悩み、相談事が出てから、産婦人科受診までにかかったおおよその期間はどれくらいですか。（単一選択）

- 1. 1週間未満
- 2. 1週間以上2週間未満
- 3. 2週間以上1か月未満
- 4. 1か月以上2か月未満
- 5. 2か月以上4か月未満
- 6. 4か月以上6か月未満
- 7. 6か月以上1年未満
- 8. 1年以上2年未満
- 9. 2年以上
- 10. わからない・覚えてない

複数回答

Q11

症状や悩み、相談事があった際に産婦人科受診に踏み切った理由は何ですか。（複数選択）

- 1. 特になし
- 2. 家族が受診を勧めたから
- 3. 友人が受診を勧めたから
- 4. 学校の先生が受診を勧めたから
- 5. 小児科の先生に産婦人科の受診をすすめられたから
- 6. SNSやインターネットで情報（症状に関する情報、同世代の体験談等）を見て、受診しても良いのだと思ったから
- 7. 産婦人科の診察内容を事前に知り、受診への不安が解消したから
- 8. 保護者に受診を内緒にしてくれると分かったから
- 9. 保護者の同意が不要だと分かったから
- 10. 費用がいくらか分かったから
- 11. 受診したくなかったが、保護者等に無理やり連れていかれたから
- 12. その他【自由記載】

複数回答

Q12

産婦人科受診前に知りたかったことは何ですか。（複数選択）

- 1. 特になし
- 2. 症状をやわらげる治療法があること
- 3. 産婦人科は未成年でも受診できること
- 4. 内診（膣に指や器材を挿入して診察すること）は必ずしも行われないこと
- 5. 保護者と問診を受けることもあるが、デリケートな内容は個別に聞かれる配慮があること
- 6. 保護者と一緒でなくても受診できること
- 7. 早期の受診により、将来的な病気（子宮内膜症等）や不妊の予防になること
- 8. 女性医師を選ぶことが出来ること
- 9. 費用の目安
- 10. その他【自由記載】

単一回答

Q13

最初の産婦人科受診は誰かと一緒に受診しましたか。（単一選択）

- 1. 保護者とともに受診した
- 2. 自分一人で受診した
- 3. 学校の先生と受診した
- 4. 保護者以外の人（友人など）と受診した
- 5. その他【自由記載】
- 6. 覚えていない

複数回答

Q14

産婦人科受診先を選ぶときに重視したことは何ですか。（複数選択）

- 1. 自宅から近いこと
- 2. 自宅から遠いこと
- 3. 夜間や休日に診療を行っている
- 4. 医師が女性であること
- 5. 子どもや若者の診察を多くしていること
- 6. 口コミが良いこと
- 7. 保護者や友人なども通院していること
- 8. 小児科の先生からの紹介があること
- 9. ホームページの内容（診察の様子など）が分かりやすいこと
- 10. その他【自由記載】
- 11. 特になし

複数回答

Q15

実際に産婦人科受診した医療機関の種類を教えてください。(複数選択)

- 1. 産婦人科の診療所（レディースクリニック、ウイメンズクリニック等）
- 2. 病院（総合病院、大学病院等）の産婦人科
- 3. 覚えていない

複数回答

Q16

産婦人科受診することを決めてから、受診するまでに感じたことは何ですか。(複数選択)

- 1. 医師やスタッフとの相性が不安だった
- 2. 医師やスタッフの性別がわからず不安だった
- 3. 医師やスタッフの性別がわかり安心した
- 4. 症状をうまく説明できるか不安だった
- 5. 内診等の診察内容が分からないから怖かった
- 6. 内診等の診察内容について事前に知る機会があり安心した
- 7. 病院やクリニックの情報を調べて不安が増えた
- 8. 病院やクリニックの情報を調べて不安が減った
- 9. その他【自由記載】
- 10. 特になし

複数回答

Q17

産婦人科受診時の対応で良かったこと、安心したことを教えてください。(複数選択)

- 1. 医師やスタッフの説明が分かりやすかった
- 2. 相談する時間が十分にあった
- 3. 医師やスタッフが話しやすい雰囲気だった
- 4. 女性医師を指定できて良かった
- 5. どんな診察をするのか事前に教えてもらい安心した
- 6. プライバシーが配慮されていた（個室で問診された、性に関する話題等口頭で話しにくい内容を記入式の間診票で書いた、話したくないことは話さなくても良いと言われた等）
- 7. 待合室や診察室のデザインや雰囲気に温かみがあり緊張しなかった
- 8. 内診室に入るところを見られないような配慮があった
- 9. 保護者と一緒に説明を受けられて安心した
- 10. 保護者と一緒に説明を聞かなくても良いと言われて安心した
- 11. その他【自由記載】
- 12. 特になし

複数回答

Q18

産婦人科受診時の対応で不安だったこと、改善してほしいことを教えてください。（複数選択）

- 1. 医師やスタッフの説明が分かりづらかった
- 2. 相談できる時間が短かった
- 3. 医師やスタッフが話しづらい雰囲気だった
- 4. 医師やスタッフが男性で不安だった
- 5. 十分な説明もなく診察をされて不安だった
- 6. プライバシーに配慮されておらず、不安だった（他の患者のいる所で問診された、性に関する話題等口頭で話しにくい内容話すことを強要された等）
- 7. 待合室で周囲の目が気になった
- 8. 待合室や診察室のデザインや雰囲気が冷たく落ち着かなかった
- 9. 内診を受けることが他の受診者にわからないような配慮がなかった
- 10. 保護者がいないところで説明されて不安だった
- 11. 保護者がいる場所で話すのが恥ずかしく嫌だった
- 12. その他【自由記載】
- 13. 特になし

複数回答

Q19

産婦人科受診した結果、良かったことは何ですか。（複数選択）

- 1. 痛みや不安が軽減された
- 2. 症状の原因や対処方法が分かった
- 3. 病気が早く見つかって治療を開始できた
- 4. 自分の体について理解が深まった
- 5. 相談できる場所ができた
- 6. その他【自由記載】
- 7. 特になし

単一回答

Q20

思春期（10-18歳頃）に女性特有の症状や悩みがあった方にお伺いします。
症状や悩み、相談事を誰かに相談しましたか。

- 1. 相談した
- 2. 相談していない

単一回答

Q21

前問で「相談した」と回答した方にお伺いします。
症状や悩み、相談事について一番最初に相談したのは誰ですか。

- 1. 保護者
- 2. 保健室の先生（養護教諭）
- 3. 学校の先生（養護教諭以外）
- 4. 友人
- 5. SNS への投稿
- 6. 生成 AI
- 7. 医療機関
- 8. 自治体・保健所等の相談窓口
- 9. 民間の相談窓口
- 10. その他【自由記載】

複数回答

Q22

前問で「相談した」と回答した方にお伺いします。
症状や悩み、相談事について相談した先を全て教えてください。（複数選択）

- 1. 保護者
- 2. 保健室の先生（養護教諭）
- 3. 学校の先生（養護教諭以外）
- 4. 友人
- 5. SNS への投稿
- 6. 生成 AI
- 7. 医療機関
- 8. 自治体・保健所等の相談窓口
- 9. 民間の相談窓口
- 10. その他【自由記載】

複数回答

Q23

保護者に相談しなかった理由は何ですか。（複数選択可）

- 1. いずれ治ると思った
- 2. 保護者に知られたいなかった
- 3. 保護者は相談しても対処してくれないと思った
- 4. 保護者に心配をかけたいなかった
- 5. 保護者に受診のお金のことを言われると思った
- 6. 相談したいと思う保護者がいなかった
- 7. その他【自由記載】
- 8. 特になし

複数回答

Q24

前問で「相談した」と回答した方にお伺いします。
安心感があった相談先はどこですか。（複数選択可）

- 1. 保護者
- 2. 保健室の先生（養護教諭）
- 3. 学校の先生（養護教諭以外）
- 4. 友人
- 5. SNS への投稿
- 6. 生成 AI
- 7. 医療機関
- 8. 自治体・保健所等の相談窓口
- 9. 民間の相談窓口
- 10. その他【自由記載】
- 11. 安心感があった相談先はない

複数回答

Q25

自身の症状に関する情報の入手先はどこですか。（複数選択）

- 1. 保護者・家族
- 2. 保健室の先生（養護教諭）
- 3. 学校の先生（養護教諭以外）
- 4. 友人
- 5. インターネット検索（Google など）
- 6. SNS
- 7. YouTube などの動画サイト
- 8. 医療機関のホームページ
- 9. 国の情報サイト
- 10. 自治体の情報サイト
- 11. 医療系情報サイト（例：製薬企業のページなど）
- 12. 学会等のサイト
- 13. 生成 AI での検索
- 14. その他【自由記載】
- 15. 特になし

複数回答

Q26

信頼できると感じる情報源は何ですか。(複数選択可)

- 1. 保護者・家族
- 2. 保健室の先生（養護教諭）
- 3. 学校の先生（養護教諭以外）
- 4. 友人
- 5. インターネット検索（Google など）
- 6. SNS
- 7. YouTube などの動画サイト
- 8. 医療機関のホームページ
- 9. 国の情報サイト
- 10. 自治体の情報サイト
- 11. 医療系情報サイト（例：製薬企業のページなど）
- 12. 学会等のサイト
- 13. 生成 AI での検索
- 14. その他【自由記載】
- 15. 特になし

複数回答

Q27

受診が必要な症状に関する認知度についておたずねします。
次のうち、産婦人科を受診した方が良いと思う症状を全てチェックしてください。(複数
選択)

- 1. 生理の痛みが強く学校や部活を休むことがある
- 2. 生理痛に関して市販の鎮痛薬が効かない
- 3. 生理周期が不安定（毎月来ない）
- 4. 生理の出血量が多く、夜用ナプキンでも漏れる
- 5. レバーのような血の塊が出る
- 6. 生理以外の時期に出血がある
- 7. 生理前に気分が落ち込んだりイライラしたりする
- 8. 生理期間に吐き気や頭痛がある
- 9. 生理がいつもより遅れている
- 10. 市販の妊娠検査で陽性だった
- 11. おりものが増えた、悪臭がある
- 12. 生理以外の時にお腹が痛い
- 13. 外陰部にブツブツがある、かゆみがある
- 14. コンドームを使用しない性行為があった、避妊に失敗した
- 15. この中に産婦人科を受診した方が良いと思う症状はない

複数回答

Q28

産婦人科受診に対する心理的ハードルを下げる（不安やためらいを少なくする）ために必要だと思うことは何ですか。（複数選択可）

- 1. 相談や受診をしても良い目安がわかりやすく示されていること
- 2. 親が女性特有の病気に関する知識を持つこと
- 3. 女性医師やスタッフが対応してくれること
- 4. 夜間・休日に診療を行っていること
- 5. 内診（膣に指や器材を挿入して診察すること）があるかどうか事前に説明があること
- 6. 保護者と一緒でも、一人でも受診できる選択肢があること
- 7. 待合室や診察室等の雰囲気が落ち着いていて安心できること
- 8. プライバシーが守られる環境（個室、呼び出し方法など）
- 9. 若年層向けの情報がわかりやすく提供されていること
- 10. 学校や保健室で受診の必要性について教えてもらえること
- 11. 友人や家族の体験談を知ることができること
- 12. 費用や診療内容が事前にわかること
- 13. 自己負担額が少ないこと
- 14. 予約や受診方法が簡単であること
- 15. その他【自由記載】
- 16. 特になし・わからない

自由記載

Q29

産婦人科受診に関して知りたいことは何ですか。（自由記述）

自由記載

Q30

どのような方法で産婦人科受診に関する情報を入手したいですか。
（例：SNS、学校、医療機関など）（自由記述）

当事者ヒアリング項目

【事前説明】

- ・ 委員会の中で、思春期のこどもが安心して産婦人科を受診できる環境づくりのために、当事者の立場からご経験やお気持ちをうかがいます。
- ・ 答えたくないことは回答いただかなくて問題ありません。無理のない範囲でご回答ください。ヒアリング時に負担を感じたら休憩したり途中で辞めたりすることが出来ます。
- ・ ご意見は思春期のこどもが安心して産婦人科を受診できる環境づくりのために活用させていただきますが、個人が特定される形で扱うことはありません。

ヒアリング項目

1. 症状と生活への影響について
 - ・ 月経時の痛みや不快感はどの程度ありますか？
 - ・ 学校生活や部活動にどんな影響がありますか？
2. 産婦人科受診に対する気持ちについて
 - ・ 産婦人科を受診しようと思ったきっかけは何ですか？
 - ・ 産婦人科を受診することにためらいや不安はありましたか？
 - ・ 受診をためらった理由は何ですか？
(例：恥ずかしさ、親への相談のしづらさ)
 - ・ 最終的に受診した（受診できた）理由は何ですか？
3. 周囲への相談について
 - ・ 症状に関して誰かに相談しましたか？その理由は何ですか？
 - ・ 誰に相談しましたか？
 - ・ 相談して受診に対する思いは変わりましたか？
4. 産婦人科受診について
 - ・ 受診先を選ぶ際に重視したことは何ですか？
(例：自宅からの距離、女医による診察、口コミ)
 - ・ 受診することを決めてから、受診するまでにどのようなことを感じましたか？
(例：女医と分かり安心した/医師との相性が不安だった、症状を相談できる場があると安心した/うまく症状を話せるか不安だった)
 - ・ 受診時の対応で良かったことは何ですか？
(例：症状の対処法を知ることが出来た、医師が話をよく聞いてくれた、話しやすい雰囲気だった、保護者と一緒に説明を受けられて安心した)
 - ・ 配慮してほしいと感じたことはありますか？
(例：医療用語を分かりやすく説明してほしい、保護者の席を外して話す時間を設けてほしい)
5. 安心して産婦人科受診できる環境についてご意見
 - ・ どのような情報があると安心して受診できると思いますか？
 - ・ 医師などの医療従事者やその他のスタッフにどんな説明や態度を望みますか？
6. その他
 - ・ その他、思春期のこどもが安心して産婦人科を受診できる環境づくりのために、重要だと感じることや強調したいことはありますか？

以上

保護者ヒアリング項目**【事前説明】**

- ・ 委員会の場で、思春期のこどもが安心して産婦人科を受診できる環境づくりのために、保護者の立場からご経験やお気持ちをうかがいます。
- ・ 答えたくないことは回答いただかなくて問題ありません。無理のない範囲でご回答ください。ヒアリング時に負担を感じたら休憩したり途中で辞めたりすることが出来ます。
- ・ ご意見は思春期のこどもが安心して産婦人科を受診できる環境づくりのために活用させていただきますが、個人が特定される形で扱うことはありません。

ヒアリング項目**1. お子さんの症状の認識について**

- ・ 症状に気づいたきっかけは何ですか？

2. お子さんの産婦人科受診に関する考え

- ・ お子さんが産婦人科受診することに抵抗を感じることはありましたか？
- ・ 抵抗を感じるがあった場合、その理由は何ですか？
- ・ 受診先を選ぶときに重視したことは何ですか？
(例：自宅からの距離、女医による診察、口コミ)
- ・ 受診時の対応で良かったことは何ですか？
(例：こどもの症状の対処法を知ることが出来た、医師が話をよく聞いてくれた、話しやすい雰囲気だった、保護者としてできることを教えてくれた)
- ・ 配慮してほしいと感じたことはありますか？
(例：医療用語を分かりやすく説明してほしい)

3. 安心して産婦人科受診できる環境についてご意見

- ・ どのような情報があるとこどもが安心して受診できると思いますか？
- ・ 医師などの医療従事者やその他のスタッフにどんな説明や態度を望みますか？

4. その他

- ・ その他、思春期のこどもが安心して産婦人科を受診できる環境づくりのために、重要だと感じることや強調したいことはありますか？

以上

思春期の女子のための



産婦人科 受診チェックリスト

早めの受診で、 今も未来も守れる

産婦人科では、痛みや不調をやわらげる方法を一緒に考えます
早めの相談で、将来の健康や妊娠に関わるトラブルを防げる可能性があります

次のような症状や悩みがあれば、産婦人科のある医療機関※で医師が相談にのります
現時点で症状がなくても相談にのります

※ 婦人科クリニック、レディースクリニック、ウィメンズクリニック等を含みます

✓ 生理の悩み

- 生理痛がつらく、がまんしている
- 生理の出血量が多い(夜用ナプキンを1-2時間おきに交換する)
- 生理の量が少ない(量が多い日でもナプキンを交換なしで過ごせる)
- 生理周期が不安定(正常な生理周期は24-38日)
- 15歳を過ぎても生理が一度も来ない
- 2, 3か月生理が来ないことがある
- 生理前にイライラや気分の落ち込みなど気持ちの変化がある
- 生理前の眠気・腰痛、むくみ、肌荒れなどの症状が出る
- 生理の時期をずらせるか相談したい

💬 気になる症状・相談

- 外陰部にかゆみ・ブツブツなどのできものがある
- おりものの匂いがきつい/いつもと違う状態のおりものが出る
- パートナーが性感染症だった
- 妊娠したかもしれない
- 避妊の方法について知りたい
- 緊急避妊(アフターピル)について知りたい



思春期女子向け
産婦人科※診察Q&A(1/4)



※ 産婦人科の医療機関だけでなく、
婦人科クリニック、レディースクリニック、ウィメンズクリニック等を含みます。



産婦人科ってどんなところ？

生理のこと(生理痛が辛い、周期がバラバラ、出血が長く続くな
ど)、妊娠のこと、性感染症のこ
と、その他の体の変化、不安等を
気軽に相談できる場所です。



どんなときに行けばよい？

症状の有無に関わらず、自身の
身体のことについて心配なこと
がある時に行きましょう。
相談だけでも歓迎です。



未成年も行ってもよい？

年齢に関係なく、受診可能です。
産婦人科は、赤ちゃんを産むた
めに行くというイメージがある
かもしれませんが、赤ちゃんを産
む人だけでなく、小学生や中学
生、高校生も行っても良いところ
です。



**性経験がなくても
行ってもよい？**

もちろん大丈夫です。
性経験の有無は関係ありません。



思春期女子向け
産婦人科※診察Q&A(2/4)



Q

親と一緒にないとダメ？

一人での受診が可能な産婦人科
もありますので、医療機関に問
い合わせてみましょう。

Q

親に内緒で行ったらバレる？

年齢や状況にもよりますが、まず
は「内緒にしたい」と相談してく
ださい。

Q

費用はどれぐらい？

気になる場合は、
・医療機関に問い合わせる
・医療機関のホームページを
参考にする
・お住まいの市区町村の窓口
に相談する
などしてみましょう。

Q

産婦人科に行くのは
特別なこと？

いいえ。
体調が悪いときに内科に行くの
と同じです。自分の体を大切に
する一歩です。



思春期女子向け
産婦人科※診察Q&A(3/4)



Q

正常な生理の目安は？

24-38日ごとに来て、3～7日
続き、痛みや出血で日常生活に
大きく困らないことです。
生理痛が辛い、周期がバラバラ、
出血が長く続くなどがあれば産
婦人科に相談しましょう。

Q

生理中の受診は
しないほうがよい？

生理中に関係なく、いつでも受
診できます。

Q

どんなことを聞かれる？

あなたの悩んでいること、具体
的な体の変化や今の状態、痛み
の程度を聞きます。
答えにくいことは無理に答える
必要はありません。

Q

うまく話せるか不安です

話したいときに話せることを話
してください。「生理が辛い」
「お腹がいたい」等で十分伝わり
ます。



思春期女子向け 産婦人科※診察Q&A(4/4)



診察って何をする？

まずは話を聞くことから始まります。体を見たり触れたりすることは、必要なときだけです。途中で気持ちが変わったり、苦痛を伴ったり、不安になったりした場合は、いつでもやめることができます。



性器の診察って かならずある？

いきなり性器の診察をすることはありません。体の診察が嫌な場合は、最初から断っても良いし、途中でやめることもできます。



どんな治療がある？

症状や困りごとによって治療はさまざまですが、必ずしも薬による治療や検査をするわけではありません。

生理痛が重いときや生理が不規則なときに効く低用量ピルというお薬を使うこともあります。



参考：公益社団法人 日本産婦人科医会「学校医と養護教諭のための思春期婦人科相談マニュアル」

令和7年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業「思春期の思春期のこどもが安心して産婦人科を受診できる環境づくりのための調査研究」にて作成



思春期の産婦人科診療に
関わる際に配慮すること

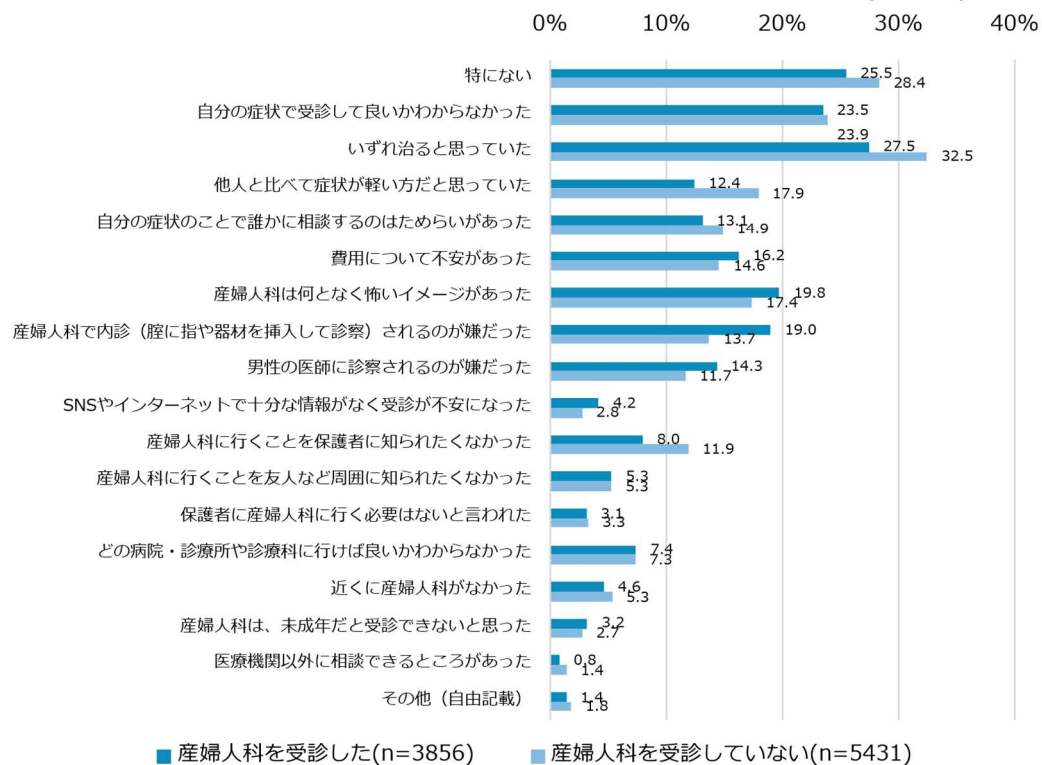


産婦人科受診に不安を感じている思春期の女性も多くみられます。
医療従事者の立場から、当事者に寄り添った診療ができるよう
配慮すべき点を解説します。

全体を通して

- ・ 診察は本人の不快感や苦痛が最小限に抑えられる方法で行う。
- ・ 本人の理解力に応じた分かりやすい言葉を用い、安心しやすい態度をとり、信頼関係を築くことを意識する。
- ・ 本人の秘密保持と尊厳が保たれるよう心がける。
- ・ ただし、犯罪が関連する場合などは、秘密にすることで不利益が予想される可能性も説明する。

【産婦人科の受診の有無別】 症状、悩みや相談したい事があったにもかかわらず、受診をしなかったり、受診をしたけどためらったりした理由はありますか。（複数選択）(n=9287)





思春期の産婦人科診療に 関わる際に配慮すること

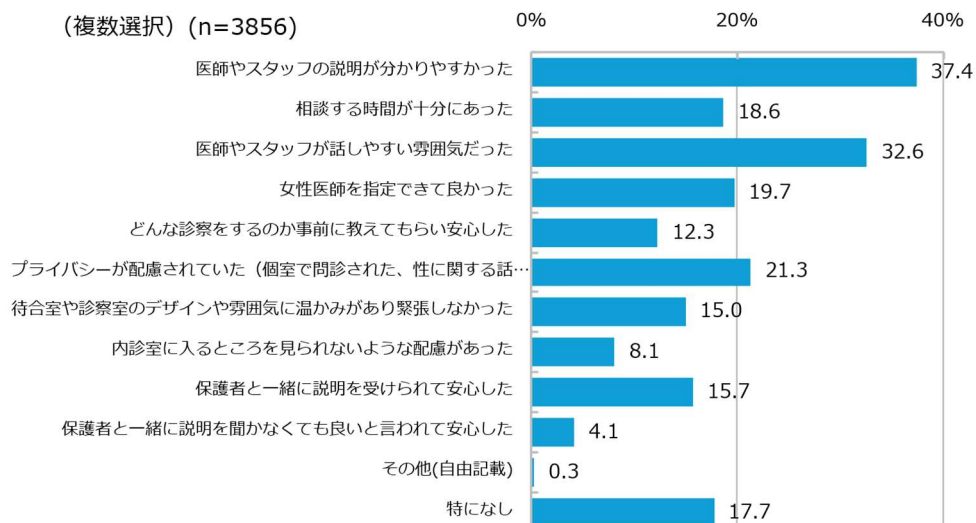


問診

- 家族などの同伴者と来院した場合は、同席だけではなく、本人単独でも行う。
- 特に、性交渉の有無・ダイエットの状況・家族関係や人間関係などが、家族の同席中には話しにくい可能性が高いので、本人単独で話す機会を設けて聴取する。
- 診察に際しての説明同意、病状・治療方針の説明上、家族の同席が必要と判断される場合は、初診時には本人への問診だけにとどめ、次回診察時に家族の来院を求める。
- 途中で気が変わったり、苦痛を伴ったりした場合は、いつでも中止を依頼してもよいことを最初に伝える。
- 未成年に対しても、理解力に応じた言葉を使って説明を行い、検査で得られる利益と検査に伴う苦痛について理解を得る。
- 初診時に決断が難しいようであれば、説明だけにとどめ、後日来院してもらうことも考慮する。
- 診察医が男性でも女性でも、本人の緊張緩和のため、リスク管理のために女性看護師の同席に務める。

産婦人科受診時の対応で良かったこと、安心したことを教えてください。

(複数選択) (n=3856)





思春期の産婦人科診療に 関わる際に配慮すること



婦人科的診察

1) 診察

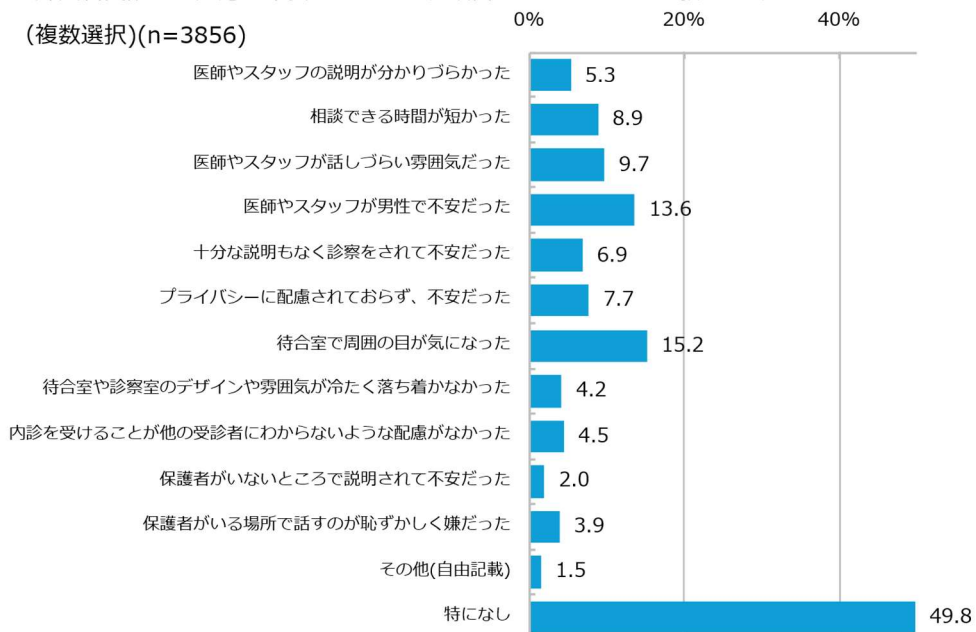
- 内診や直腸診、腔鏡診は避け、経腹超音波検査を選択する。
- 膀胱に尿をためて経腹超音波検査を実施する。必要に応じて飲水を促す。
- 経腹超音波検査で評価が困難かつ画像での評価が必要な場合、経腔もしくは経直腸的な診察は避け、MRI検査などを実施する。

2) 視診・腔鏡診、直腸診、経腔・経直腸超音波検査

- 上記の診察でどうしても代用できず、経腔もしくは経直腸的な診察をしなければならぬときは、十分な説明を行って同意を得た上で行う。
- 同意の上、診察する場合も診察をいつでも中止できることを伝える。
- 経直腸超音波検査は直腸診をした後に行うと怖がらないことも多い。
- 超音波画像のモニターも見たいかどうか聞く。見せながら検査をした方が怖がらないこともある。
- 内診台のカーテンは本人の好みを聞く。閉じている方が怖いという場合も多く、その場合は開ける。
- 診察器具も怖がるので見せない方がよい場合もあるが、むしろ見せた方が安心する場合もあり、本人とコミュニケーションをとりながら診察をすすめ、黙って器具を入れるようなことが決してないようにする。

産婦人科受診時の対応で不安だったこと、改善してほしいことを教えてください。

(複数選択)(n=3856)





思春期の産婦人科診療に 関わる際に配慮すること

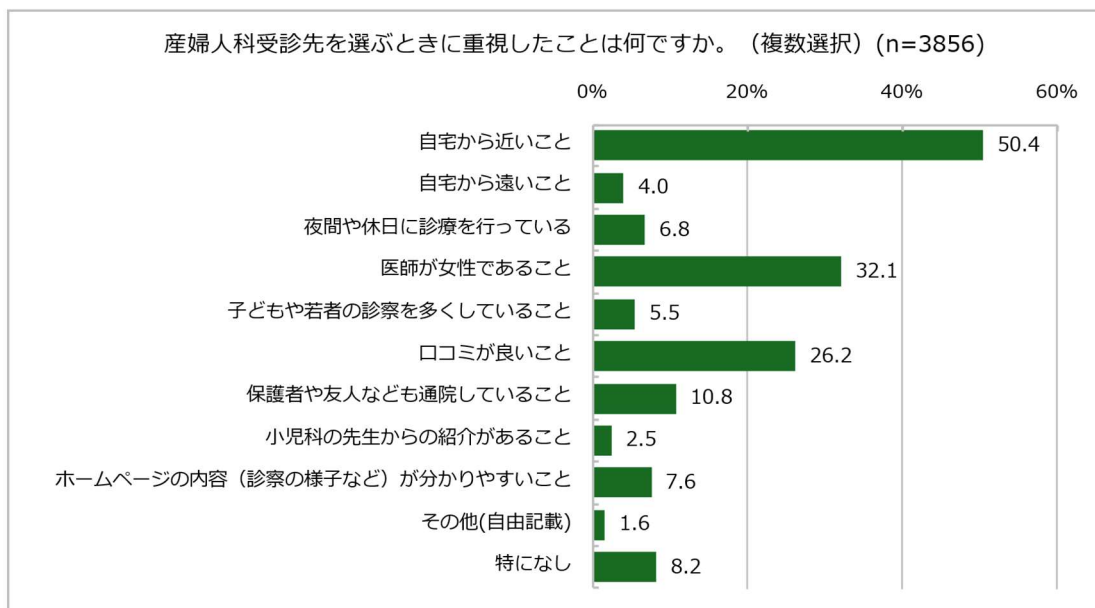


病状説明

- 本人の理解力に応じた分かりやすい言葉で病状を説明する。
- パンフレット・模型などを用いて説明すると分かりやすい。
- 本人に判断能力がある場合で、同伴した家族などに病状を説明する場合は、先に本人に家族への情報共有に対する同意を得てから説明する。

その他

- ホームページなどで若者を診療していることを発信すると、安心感をもってもらいやすい。
- 内診は必ずしも行われないことや診療内容を情報発信する。



参考:公益社団法人 日本産婦人科医会 思春期のケア <https://www.jaog.or.jp/notes/note13259/>

令和7年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業「思春期の思春期のこどもが安心して産婦人科を受診できる環境づくりのための調査研究」にて作成

令和7年度 こども家庭庁 子ども・子育て支援等推進調査研究事業
「思春期のこどもが安心して産婦人科を受診できる環境づくりのための調査研
究」
事業報告書

発行日：令和8年3月
発行：PwC コンサルティング合同会社